ハーベスタ

取扱説明書

MH77D



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

輸出または非居住者に提供する場合

当社製品ならびに技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法規制を順守ください。

なお、お客様の違反に伴う損害について、当社は責任を負いません。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ハーベスタをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げ先にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げ先へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されても直ちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠ **危険**	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。
[重要]	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
[参考]	作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の作物の刈取・収穫用作業機としての農業用にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などはしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

memo

もくじ

安全に作業をするために 6

サービスと保証について 15

仕様について 16

本製品の使用目的について 16

1

各部のなまえ 17

安全銘板の貼り付け位置 19

各部のはたらき 23

2

運転のしかた 27

1. 作業前の点検……27
2. エンジンの始動・停止のしかた……29
3. 発進・旋回・変速・停止のしかた……32
4. 走行のしかた……35
5. トラックへの積込み・積降ろし・あぜ越えのしかた……37

作業のしかた 39

1. 作業条件とほ場条件……39
2. 脱こく作業のしかた……39
3. 作業に適した調節のしかた……44

3

作業後の手入れについて 48

1. 脱こく内部の清掃……48
2. 作業後の手入れ……49
3. 長期間使用しないときの手入れ……50

4

手入れと点検・調整 51

1. 点検箇所一覧表……52
2. 各部オイルの点検・交換のしかた……53
3. 各部注油のしかた……55
4. 燃料の点検・給油のしかた……57
5. 燃料コシ器の掃除のしかた……57
6. エアクリーナーの掃除のしかた……58
7. 燃料の空気（エア）抜きのしかた…58
8. 冷却水の点検・交換のしかた……59
9. 吸気口の掃除のしかた……60
10. ヒューズの点検・交換のしかた……60
11. 切刃の交換のしかた……61
12. 走行クラッチレバーの調節のしかた……62
13. サイドクラッチレバーの調節のしかた……62
14. 走行切レバーの調節のしかた……63
15. 各ベルトの調節のしかた……63
16. クローラの調節のしかた……66
17. バッテリについて……67

不調診断 69

主要諸元 72

標準付属品 73

安全に作業をするために

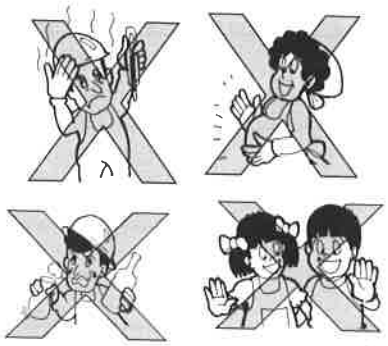
ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。
また、説明図が本機と異なっていますが、ご了承ください。

●一般的な注意項目

⚠警告　こんなときは、運転しない！

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18才未満の人

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。



2010902

⚠警告　排気ガスには十分に注意

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

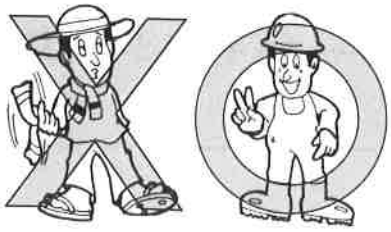


1092501

⚠警告　作業に適した服装を

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2010903

⚠警告　機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害をまねくおそれがあります。



1092502

⚠注意　必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】
整備不良による事故で、ケガをするおそれがあります。



1092503

⚠注意　必ず作業前の点検をする

機械を使用する前に必ず作業前の点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。
また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

【守らないと】
点検不良による事故で、ケガをするおそれがあります。



1092504

●作業前後の確認時の注意項目

⚠危険　注油・給油はエンジンが冷めてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



1092505

⚠危険　燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



1092506

⚠危険 ラジエータが熱いときはキャップを外さないで

ラジエータが過熱しているときは、絶対にラジエータキャップを外さないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドをすることがあります。



2034606

⚠危険 バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気（タバコ・ライターなど）を近付けないでください。

【守らないと】

バッテリの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、ヤケドや火災を引き起こすことがあります。



2010913

⚠警告 燃料もれに注意

燃料パイプの破損や、燃料もれがないか必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをすることがあります。



1092507

⚠警告 燃料キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをすることがあります。



1092508

⚠警告 バッテリの取り付け・取り外しは正しい手順でする

バッテリの取り付けは、プラス側を付けた後、マイナス側を取り付けてください。取り外しはマイナス側を外した後、プラス側を取り外してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。



⚠警告 必ず指定のバッテリを使用する

バッテリの交換は、必ず取扱説明書で指定された容量のバッテリを使用してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。



⚠警告 バッテリ液を「下限（LOWER）」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



⚠警告 点検・整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると、大変危険です。必ず点検調整してください。

【守らないと】

死亡事故や傷害の原因になります。



⚠警告　操作レバー類は必ず点検する

サイドクラッチレバーや、その他のレバー類に著しいガタや遊びがないか確認してください。

【守らないと】

正常な走行ができず、交通事故を引き起こす原因になります。



1092511

⚠警告　点検・整備時にはエンジン停止

点検・整備は、エンジンを確実に停止させ、クローラに歯止めをしてから行ってください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故を起こします。



1092512

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



1092513

●運搬時の注意項目

⚠警告　トラックへの積込み時、長さ・強度・幅の充分あるアユミ板を使用する

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準に合ったものを使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



1092514

⚠ 警告 **トラックへの積込み時、アユミ板の平行を確認する**

アユミ板の平行や安定は必ず確認してください。

【守らないと】

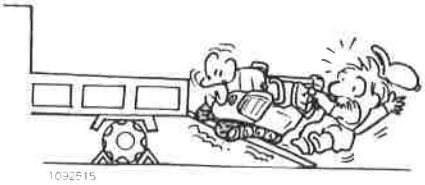
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



⚠ 注意 **アユミ板の上では、進路変更禁止**

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



●移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠ 危険 **籾受台や機械の上には、人を乗せない**

走行中は、機械に人を乗せたり近付けたりしないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠ 警告 **公道では、走行禁止**

【守らないと】

衝突事故を起こすことがあります。



⚠警告 **坂道では駐車禁止**

やむを得ず坂道の途中で駐車するときは、木片などで歯止めをして、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因になります。



1092516

⚠注意 **坂道、凹凸、屈曲の激しい道路では、低速で運転する**

発進するときは、周囲の安全を確認してから発進してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。



1092303B

●作業時の注意項目

⚠危険 **ワラクズの上では絶対作業をしない**

ワラクズが堆積している付近に機械を止めて、脱こく作業をしないでください。

【守らないと】

マフラーの熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすことがあります。



1092517A

⚠危険 **作業中は絶対に人を近づけない**

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1092517B

⚠警告 ワラクズを取り除くときはエンジン停止



1092303C

脱こく部の詰まり除去や、結束装置のひも交換のときは、必ずエンジンを止めてください。

【守らないと】

衣服がまきこまれたり、手をはさまれたりして、傷害事故を引き起こすことがあります。

⚠注意 補助者とは作業の段取りを打合せする



1092518

脱こく作業は組作業の場合が多いので、補助者と作業前によく打合せしてください。

【守らないと】

傷害事故の原因になります。

⚠注意 畦畔の乗越えは、最低速度で畦畔に対し直角に渡る


1092511

段差があるところではアユミ板も使用してください。

【守らないと】

バランスをくずしたりして転倒し、傷害事故を引き起こします。

⚠注意 夜間作業の禁止



【守らないと】

思わぬ事故を引き起こす原因となります。

●作業終了後・格納時の注意項目

⚠警告 作業が終ったら点検・整備をする

作業が終了したら、必ず点検・整備を行い、掃除をしてゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災の原因になることがあります。

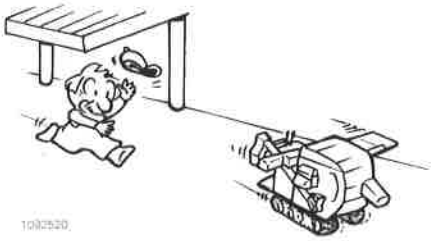


⚠警告 平坦な場所に保管する

保管は平らな場所を選び、走行クラッチレバーを「ブレーキ」位置にして、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。



⚠警告 エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが過熱している間は、シートをかけないでください。

【守らないと】

火災の原因になることがあります。



サービスと保証について

保証書について

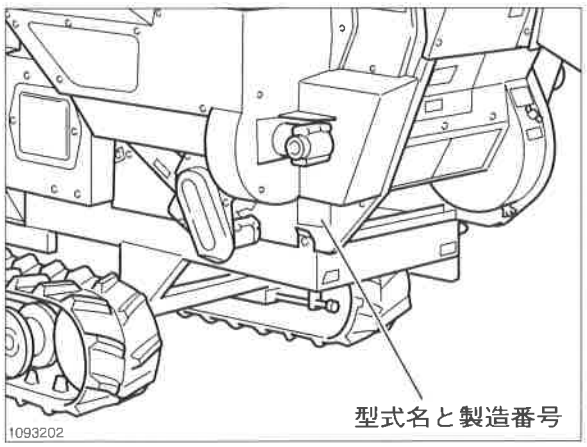
「**保証書**」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに69ページの「**不調診断**」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ先にご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。



1093202

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品、純正オイルは、厳密なテストを重ねきびしい品質検査に合格したもので、安心してご使用いただけます。
部品・オイルを交換する際は、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



2034455

排出ガス規制について

本機は、日本陸用内燃機関協会の排出ガス自主規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには「点検箇所一覧表」（52ページ）に従って、エンジンオイル・オイルフィルタ・燃料フィルタ、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠ると、基準値をクリアできない場合があります。

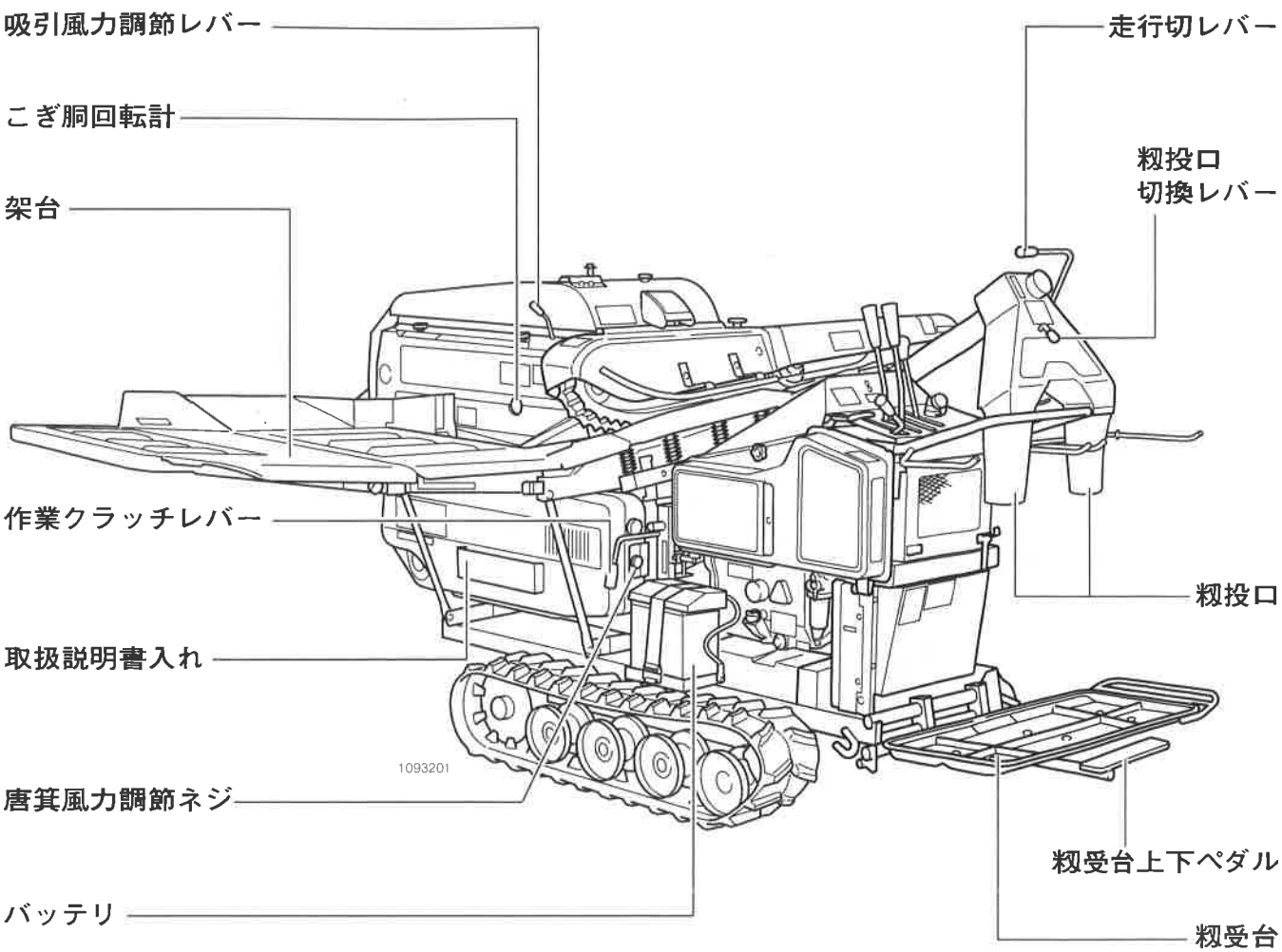
仕様について

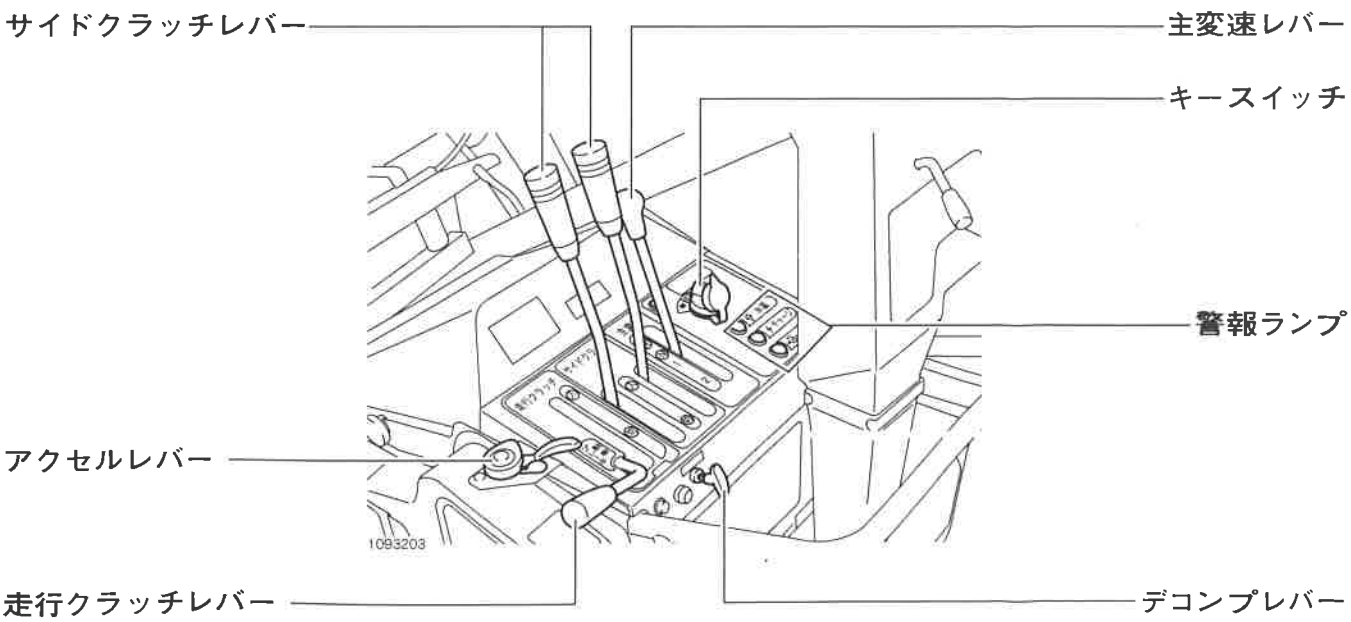
仕様項目	型　　式
	MH77DS
始動方法	セル始動
バッテリの有無	有
籾受台上下ペダルの有無	有
ササリ回収装置の有無	有
架台の大きさ	ジャンボ

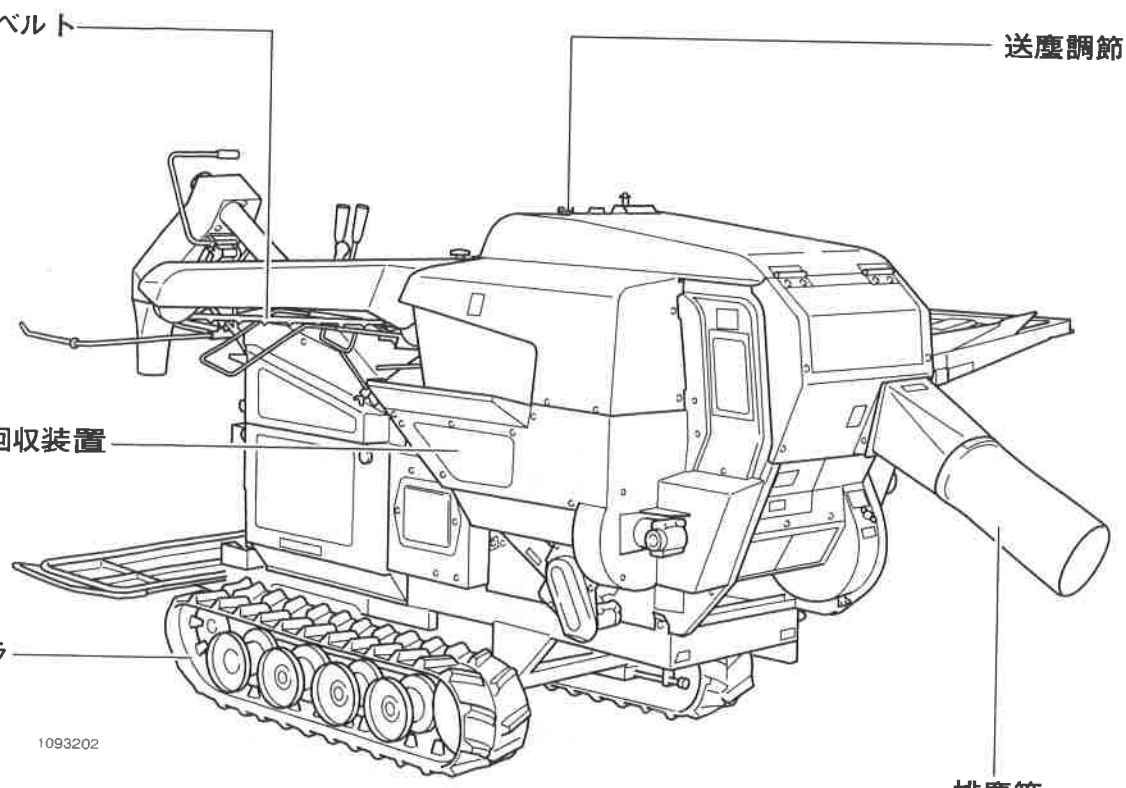
本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の脱こく収穫用の作業機としてご利用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

各部のなまえ


吸引風力調節レバー
こぎ胴回転計
架台
作業クラッチレバー
取扱説明書入れ
唐箕風力調節ネジ
バッテリ
走行切レバー
籾投口
切換レバー
籾投口
籾受台上下ペダル
籾受台
1093201


サイドクラッチレバー
アクセルレバー
走行クラッチレバー
主変速レバー
キースイッチ
警報ランプ
デコンプレバー
1093203

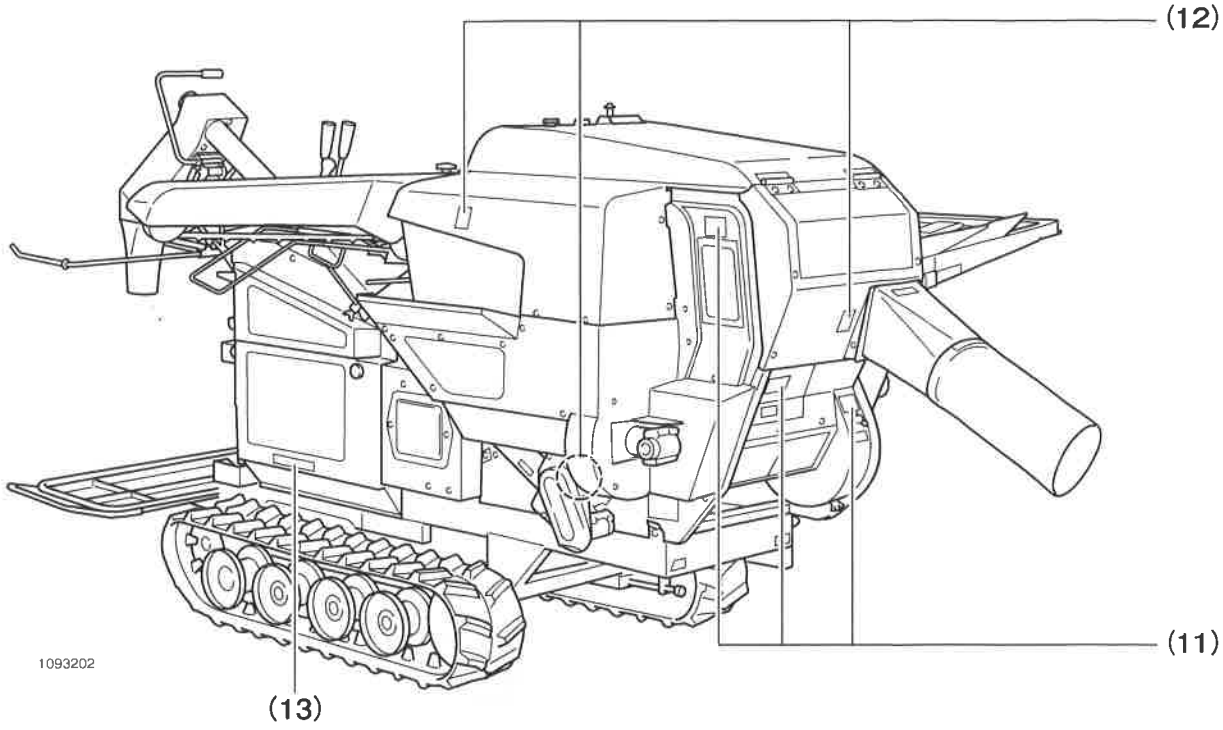


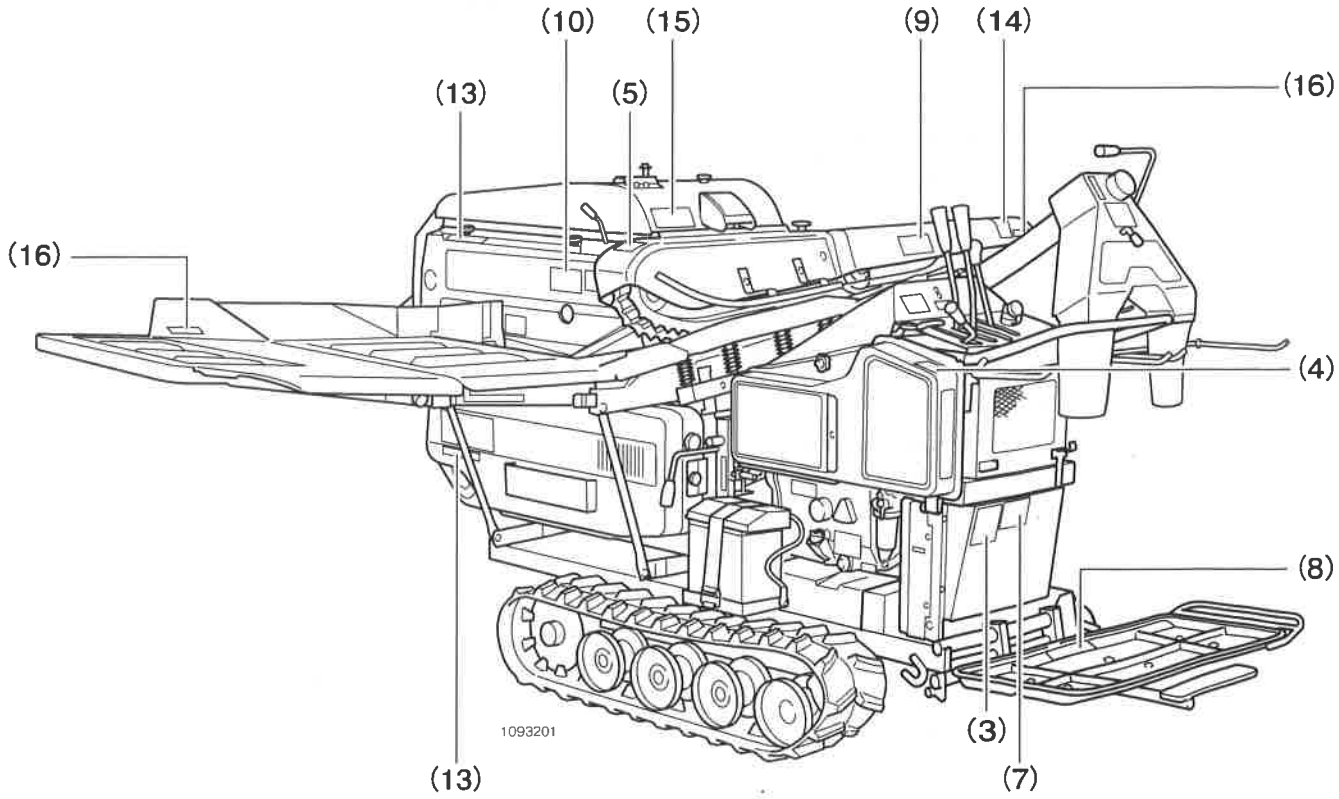
排塵筒

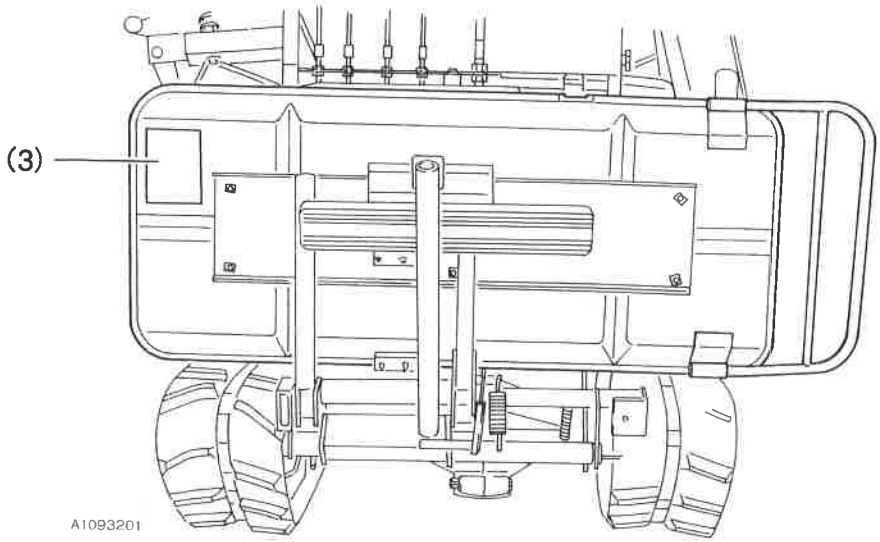
ワラクズやホコリを機外に吹き飛ばすところです。作業状態や風向きに合わせて上下・左右に調節できます。

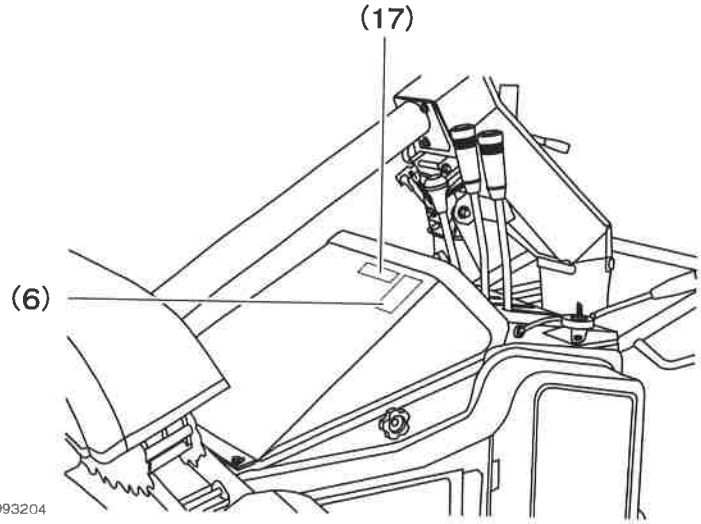
安全銘板の貼り付け位置

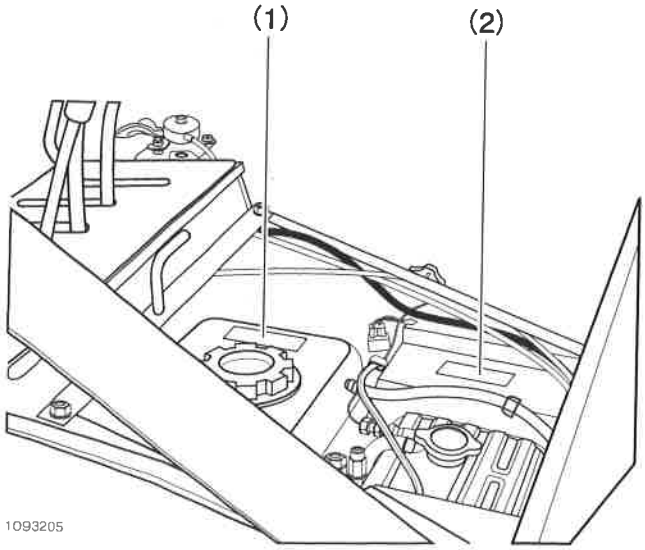
安全に作業をしていただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。






(3)
A1093201


(17)
(6)
1093204


(1)
(2)
1093205

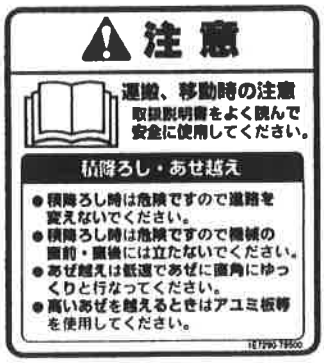
(1) 94690070270　危険（火気厳禁）



(2) 90300029400　危険（ラジエータ）



(3) 97400000060　注意（移動）



(4) 10020070160　注意（エンジン停止）



(5) 97400000070　警告（定置脱こく）



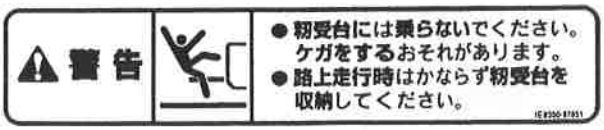
(6) 97400000040　警告（ワラクズ）



(7) 97400000080　注意（取扱い）



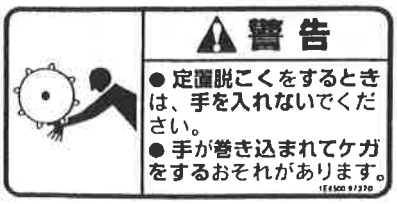
(8) 97400000050　警告（籾受台）



(9) 97400000090　警告（点検 D）



(10) 97400000100　警告（定置脱こく B）



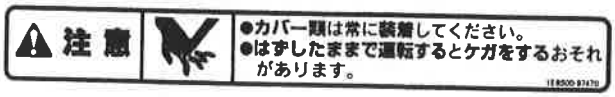
(11) 97400000110　注意（フタ）



(12) 97420000040　警告（点検 E）



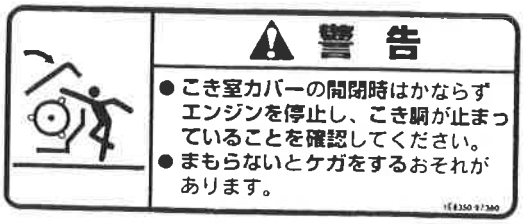
(13) 94690070360　注意（ベルトカバー C）



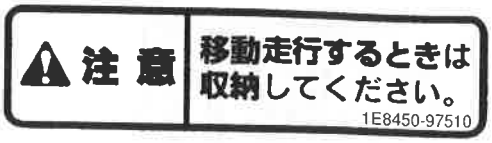
(14) 97400000030　警告（回転 A）



(15) 94690070260　警告（こぎ室カバー B）



(16) 94950006410　注意（収納）

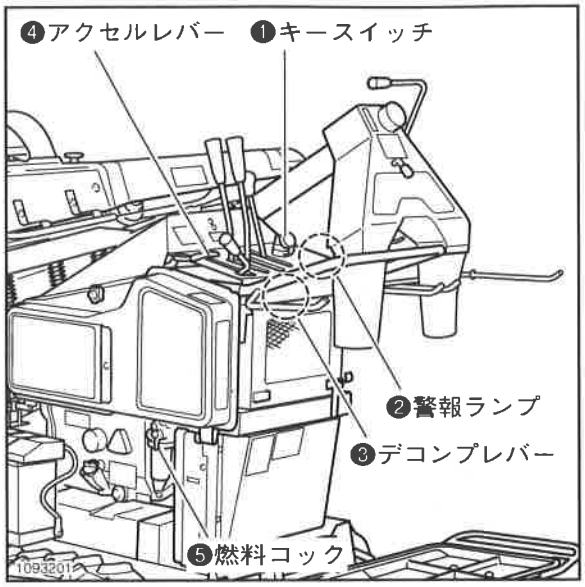


(17) 91650002660　警告（排気ガス）



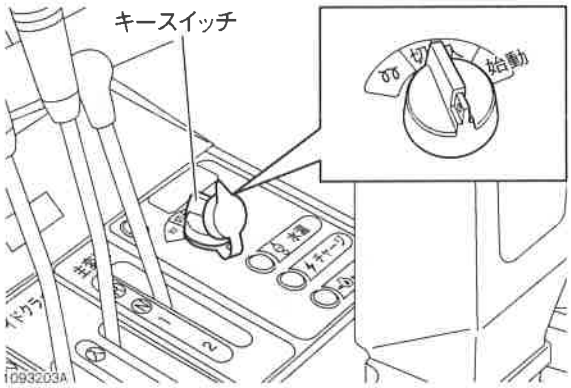
各部のはたらき —なまえとはたらきをよく覚えてください。

エンジンコントロール関係



❶キースイッチ

エンジンの始動に使用します。



「切（OFF）」

この位置にキーがあれば電流は流れません。

「入（ON）」

この位置にキーがあれば電流が流れて、スイッチを入れると電装品は作動します。

「始動（START）」

この位置にキーを回せば、セルモータが回転し、エンジンが始動します。

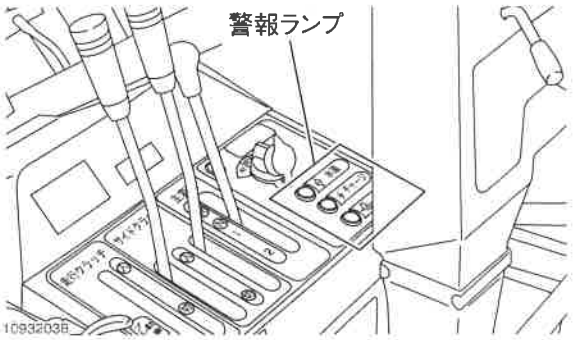
エンジンが始動すると、キーから手を離してください。キーは自動的に「入」の位置に戻り、連続運転に入ります。

「ꕥ」グロー

この位置にキーがあればグロープラグに通電し、寒冷時での始動を容易にします。なお、「ꕥ」位置での通電は、パイロットランプが点灯している間(約４秒)だけにしてください。

❷警報ランプ

各部に異常があった場合、異常発生箇所のランプが点灯して知らせます。



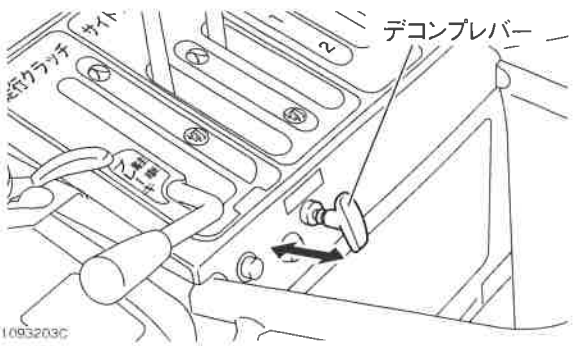
キースイッチを「入」にするとはたらきます。各モニタの点灯で機械の状態を知ることができます。

… 冷却水が過熱状態です。冷却水の量や冷却ファンベルトのゆるみ点検が必要です。

… エンジンオイルの量が足りません。エンジンオイルの量の点検など必要です。

… 充電ができていません。電気系統の点検が必要です。

❸デコンプレバー

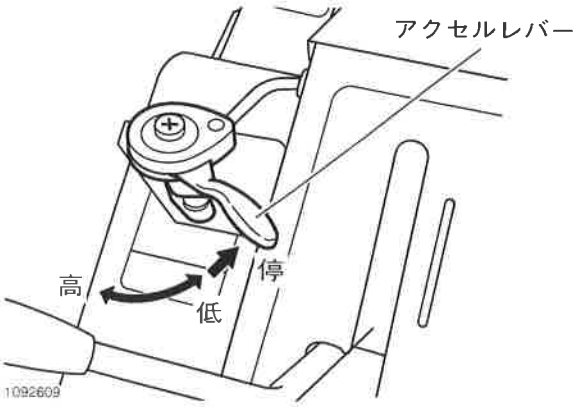


エンジン内の圧縮を抜き、エンジンの始動を容易にします。

手前に引くと無圧縮の状態になります。

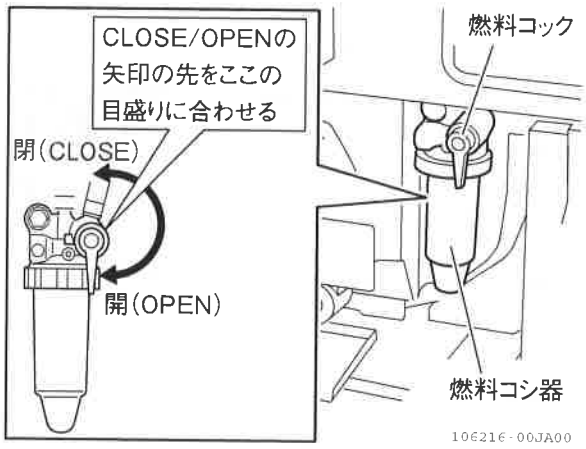
寒冷時のエンジンの始動を容易にします。

❹アクセルレバー



エンジンの回転を調節するのに使用します。エンジン始動時に、アクセルレバーを「**高**」位置にし、エンジンを停止する場合は「**停**」位置に戻してください。作業中は任意の位置に調節します。

❺燃料コック



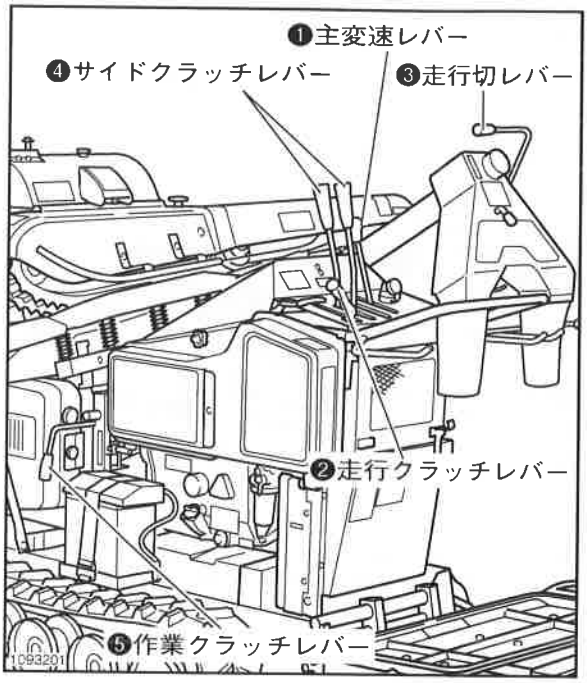
燃料タンクの燃料を流したり、止めたりします。

閉 CLOSE …燃料を止めます。
長期間使用しない場合はこの位置にしてください。

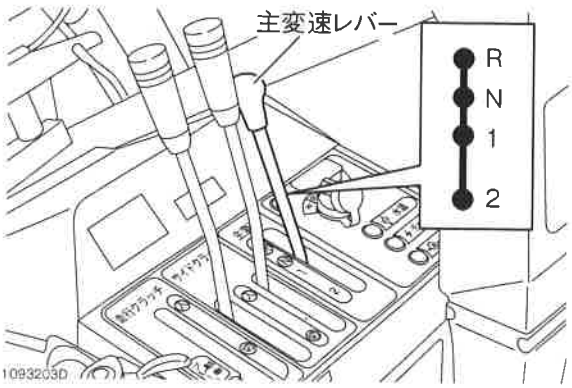
開 OPEN …燃料が流れます。
運転中はこの位置です。
この位置から少し左へまわすと「エアー抜き」ができます。

燃料供給の開閉に使用します。燃料の空気（エア）抜きに使用します。

走行・作業関係

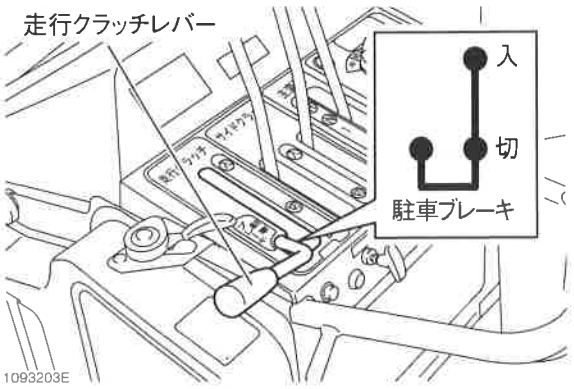


❶主変速レバー



走行速度の変速に使用し、前進２段・後進１段の変速ができます。操作は走行クラッチレバーを「**切**」位置にして行います。

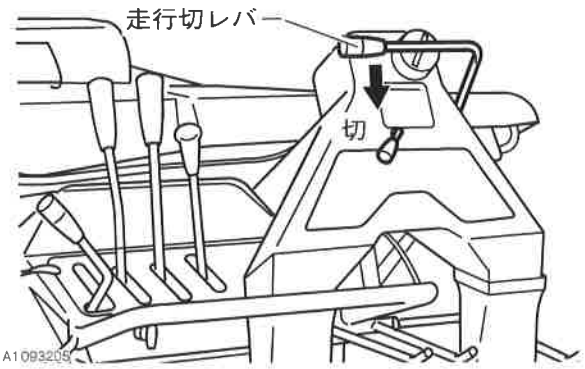
❷走行クラッチレバー



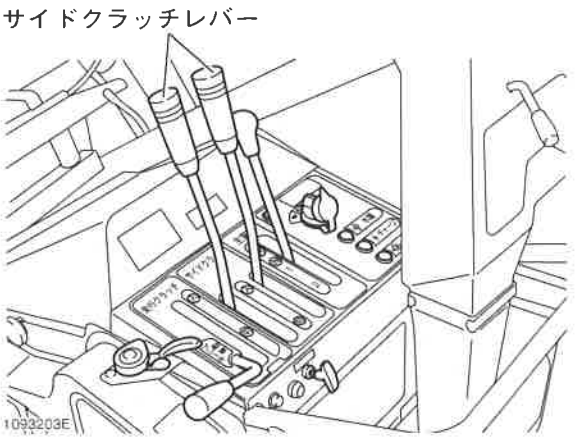
前方へ倒すと「**入**」位置となり、エンジンの動力をミッションへ伝えます。手前へ引くと「**切**」位置となり、さらに引くとブレーキがかかります。

❸走行切レバー

本機の停止に使用します。
移動走行時、走行切レバーを下方へ押すと走行クラッチレバーが「**切**」位置となり、走行を停止します。

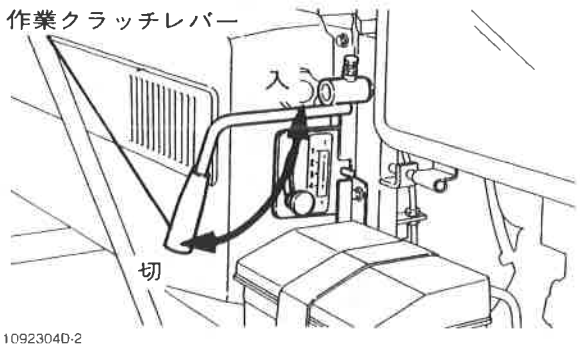


❹サイドクラッチレバー



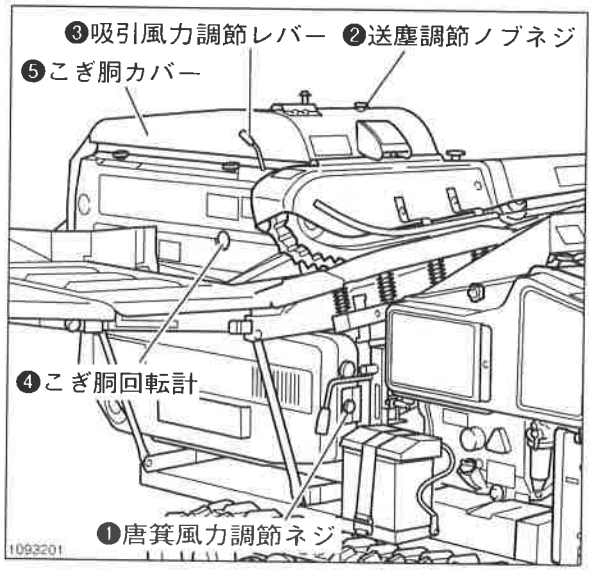
機体の方向転換に使用します。レバーを引いた側のクローラの回転が止まり。機体はレバーを引いた方向に曲がります。

❺作業クラッチレバー



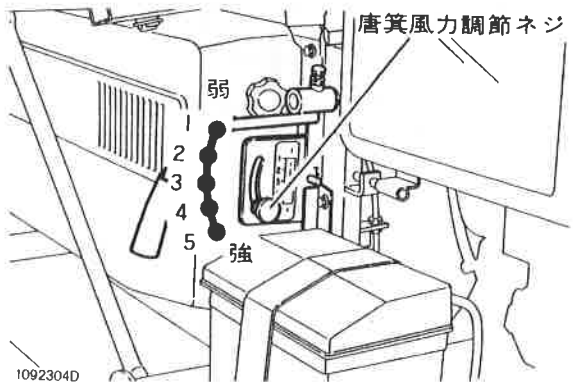
脱こく部の作動に使用します。
作業クラッチレバーを「**入**」位置にすると脱こく部が作動し、「**切**」位置にすると停止します。

作業関係

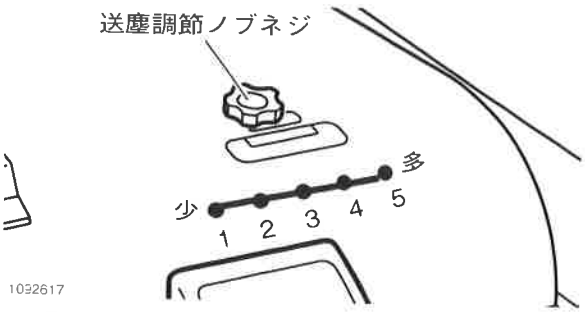


❶唐箕風力調節ネジ

選別風力を調節するネジです。ネジを「強」側にすると選別風力が強くなり、「弱」側にすると選別風力が弱くなります。



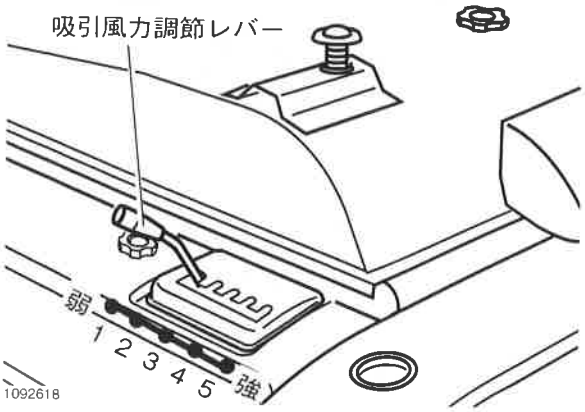
❷送塵調節ノブネジ



こぎ室から排塵部へ送るワラクズなどの量を調節するノブネジです。

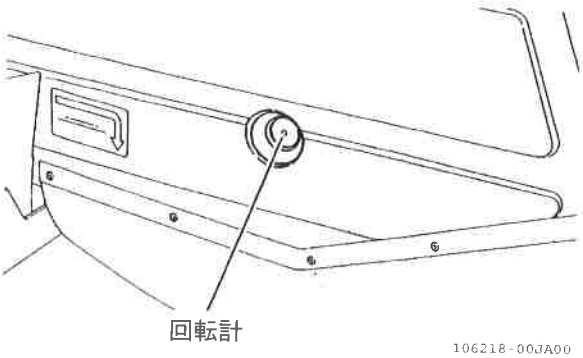
❸吸引風力調節レバー

排塵口に籾の飛散が多く、また選別が悪い場合に吸引風力を調節するレバーです。
レバーを「強」側にすると吸引風力が強くなり、「弱」側にすると吸引風力が弱くなります。



❹こぎ胴回転計

脱こく作業時の、こぎ胴の回転数を確認する回転計です。



作業中、回転計の赤丸が静止状態となるように、アクセルレバーで調節します。

1. 作業前の点検

⚠危険

- **エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。**
- **燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。**

⚠警告

- **点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。**
- **点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。**
- **点検・整備・調節後は、全てのカバーを取り付けてください。**

※安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

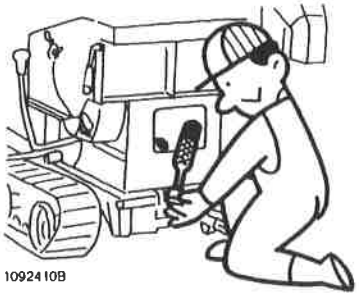
❷本機のまわりを回ってみて

- 各部の損傷・汚れ・ボルトのゆるみ。
- クローラの損傷…66 ページ



❸エンジンルームを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…52 ページ



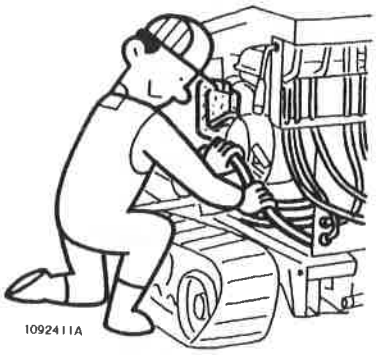
- 燃料の量と燃料のもれ、燃料パイプの損傷… 57 ページ



●エアクリーナーの汚れ…58 ページ



●マフラーなどの過熱部分のほこりやゴミ。
●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ。



❹エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音。
●排気ガスの色。



●各作業クラッチ・スイッチの作動状態。



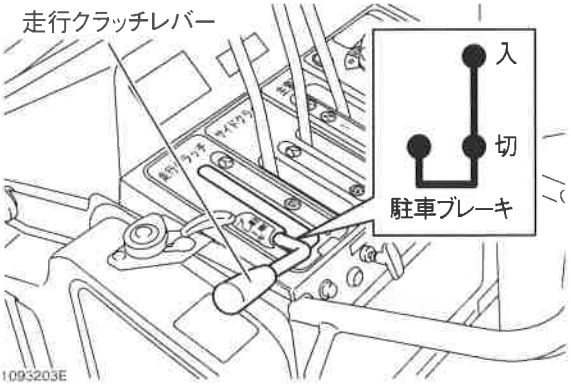
2. エンジンの始動・停止のしかた

⚠注意

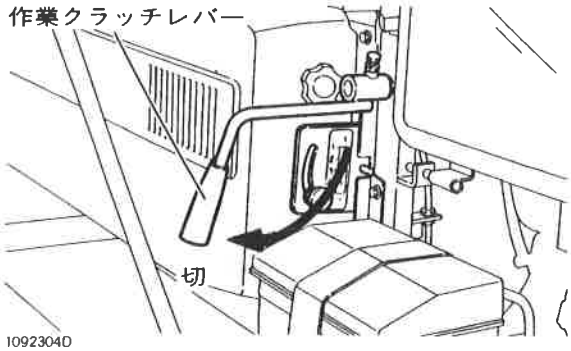
●エンジン始動時は必ず主変速レバーを「N」位置、作業クラッチレバーを「切」にし、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。機械が急に動いてケガをするおそれがあります。

始動のしかた

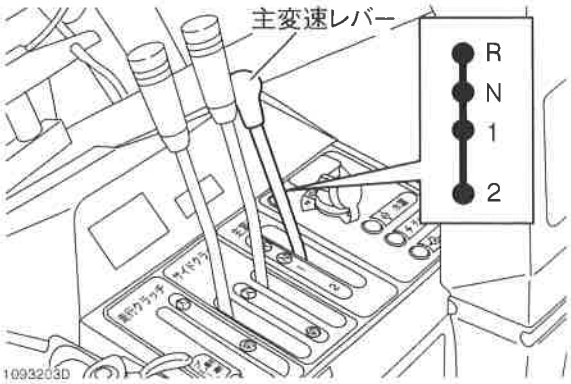
①走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にします。



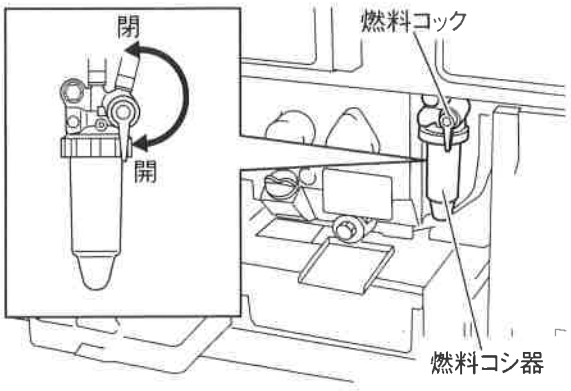
②作業クラッチレバーを**「切」**位置にします。



③主変速レバーを**「N」（中立）**位置にします。



④燃料コックを**「開」**位置にします。

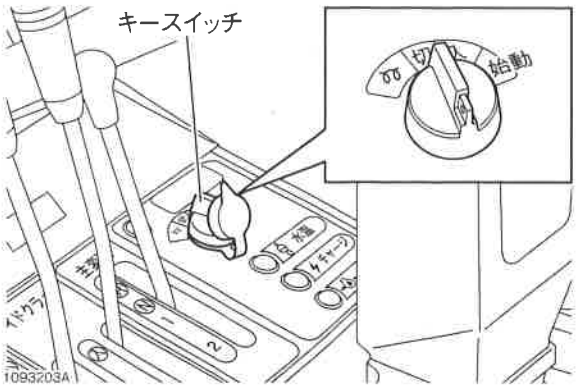


⑤アクセルレバーを**「高」**位置にします。

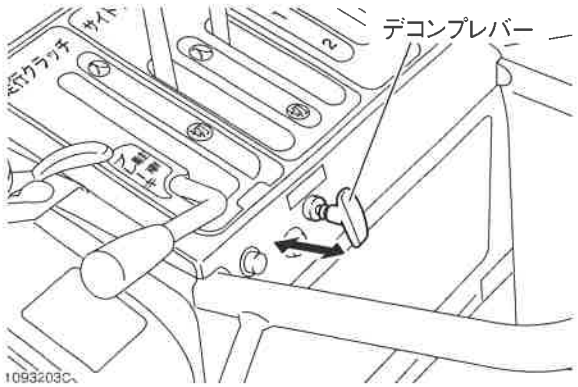


⑥〈寒冷時のみ〉
キースイッチを「ꕥ」位置にして、パイロットランプが点灯している間（約4秒間）保持し、パイロットランプが消灯してから「**入**」位置にしてください。

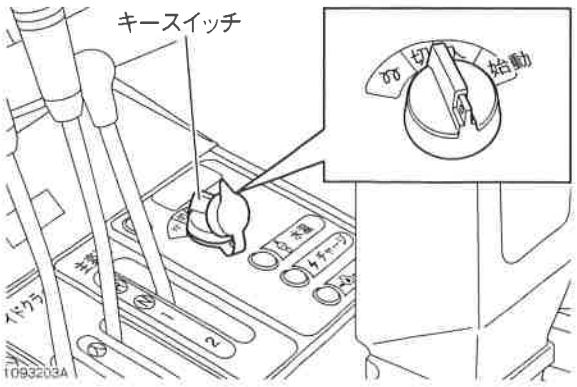
⑦キースイッチを「**入**」位置にします。
このときチャージランプ、エンジン油圧ランプが点灯します。



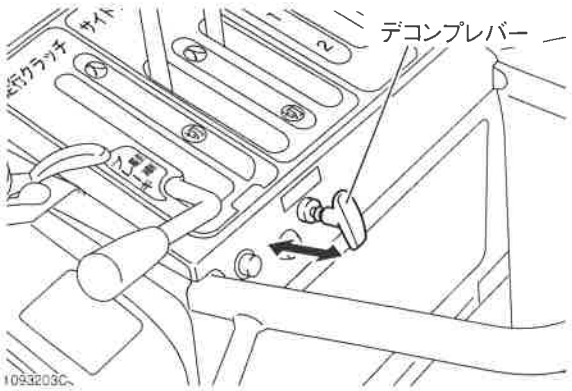
⑧〈寒冷時のみ〉
デコンプレバーを引き、保持します。



⑨キースイッチを「**始動**」位置にします。

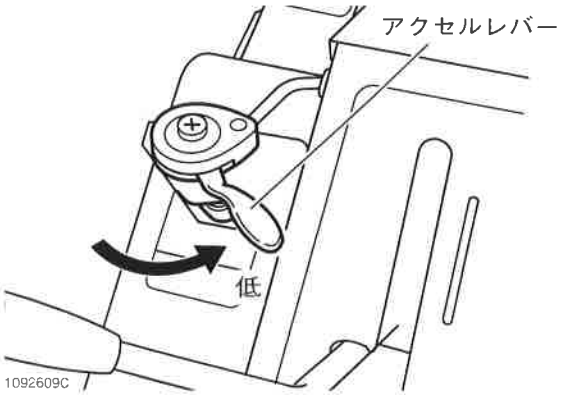


⑩〈寒冷時のみ〉
セルが勢いよく回り出したら、デコンプレバーを戻します。



⑪エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離します。

⑫アクセルレバーを「**低**」位置にします。



※エンジン始動後約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。（エンジンの暖機運転）

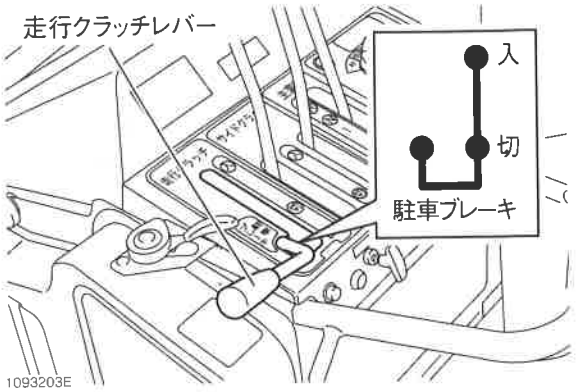
※セルモータの1回の運転時間は、5秒以内にしてください。もしエンジンがかからないときは、いったんキースイッチを切り、30秒以上バッテリを休ませてから、ふたたび始動させてください。

※走行クラッチレバーが「**駐車ブレーキ**」位置、作業クラッチレバーが「**切**」位置になっていないとセフティースイッチが働き、エンジンは始動しません。

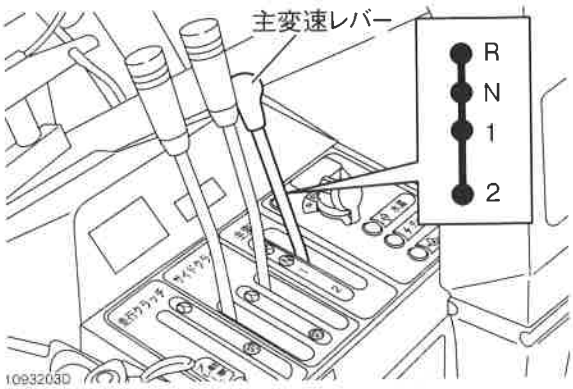
※エンジンが始動してもチャージランプ・エンジン油圧ランプが消えないときは、お買い上げ先へ連絡してください。

エンジンの停止のしかた

①走行クラッチレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にして停止します。



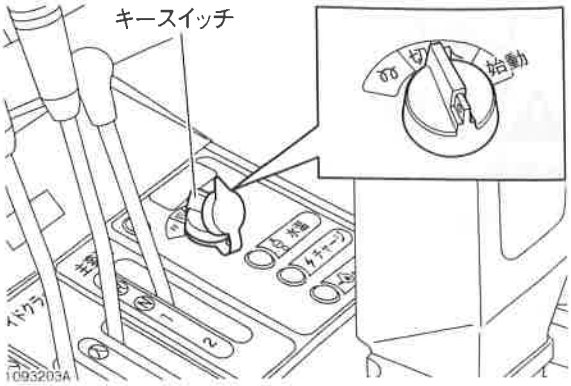
②主変速レバーを「**N**」（中立）位置にします。



③アクセルレバーを「**停**」（いっぱいまで戻す）位置にすると、エンジンが停止します。



④キースイッチを「**切**」位置にします。



【取扱いの注意】

- **デコンプレバーでのエンジン停止はしないでください。**

3. 発進・旋回・変速・停止のしかた

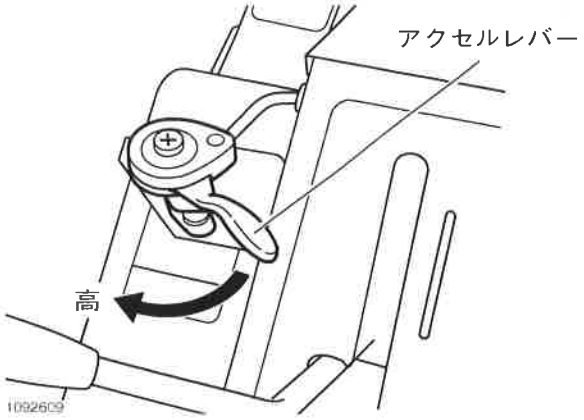
⚠注意

●発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。

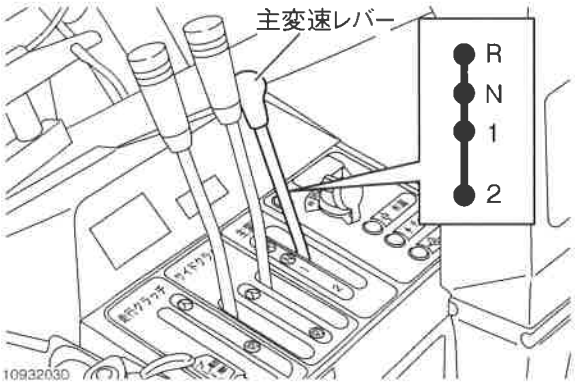
発進のしかた

①エンジンを始動します。

②アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



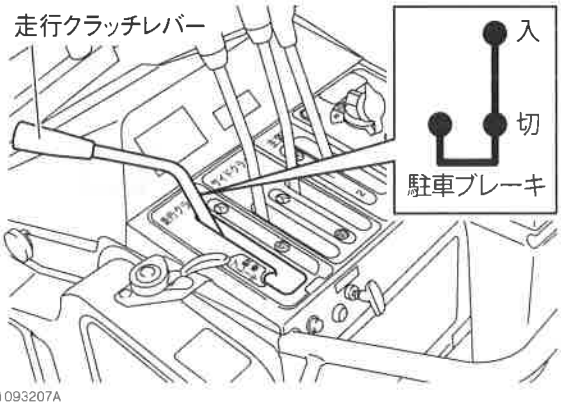
③主変速レバーを希望の速度に入れます。



【取扱いのポイント】

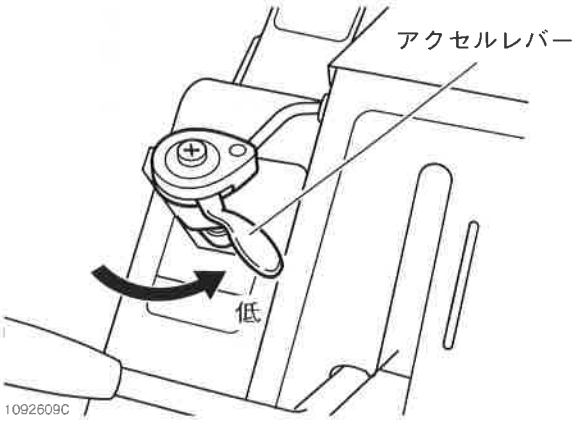
●主変速レバーが入りにくいときは、主変速レバーを「N」（中立）位置にして、走行クラッチレバーを「入」「切」と何度か操作を行い、「切」位置にしてから改めて、主変速レバーの操作を行ってください。

④走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から外し、徐々に「入」位置にして、ゆっくり発進します。

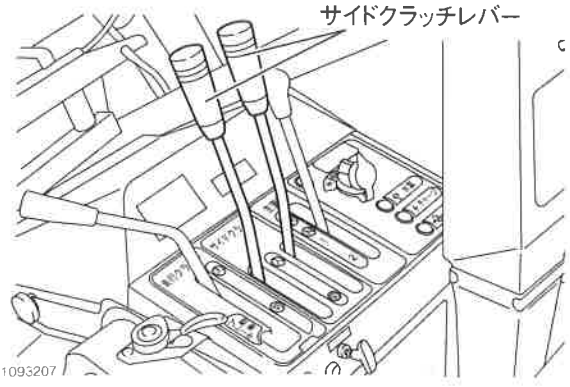


旋回のしかた

①アクセルレバーを「低」位置にします。



②旋回したい側のサイドクラッチレバーを引きます。



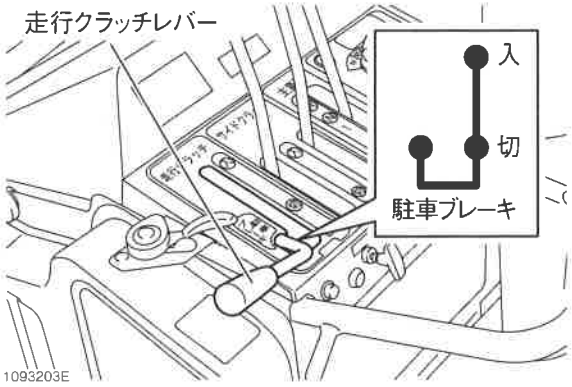
変速のしかた

⚠危険

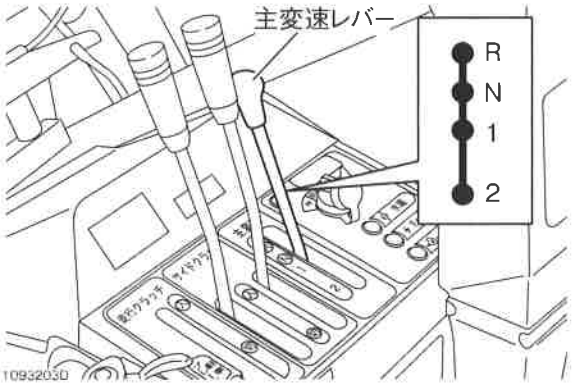
●坂道で変速しないでください。やむを得ず坂道で変速する場合は、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。機体が停止せず非常に危険です。

走行の途中で変速するときは、下記の要領で行ってください。

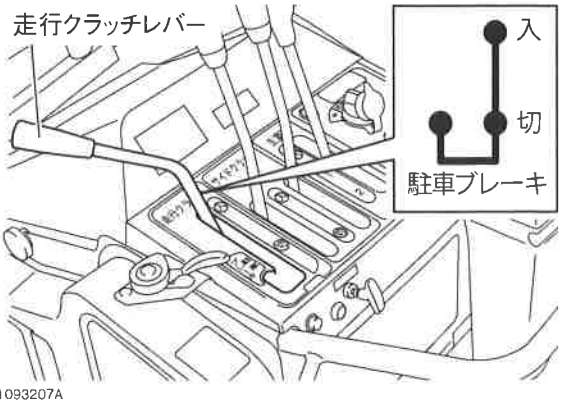
①走行クラッチレバーを「切」位置にします。



②主変速レバーを希望の速度に入れます。



③走行クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。



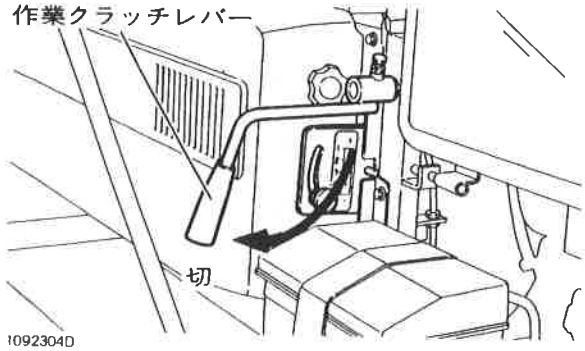
※「前進」から「後進」、「後進」から「前進」に変速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。

【取扱いのポイント】

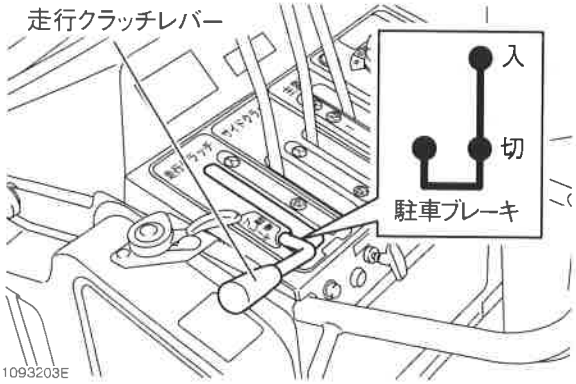
●主変速レバーが入りにくいときは、主変速レバーを「N」（中立）位置にして、走行クラッチレバーを「入」「切」と何度か操作を行い、「切」位置にしてから改めて、主変速レバーの操作を行ってください。

停止・駐車のしかた

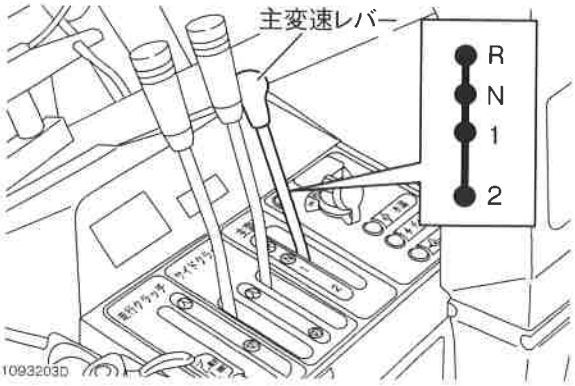
①作業クラッチレバーを「**切**」位置にします。



②走行クラッチレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にします。



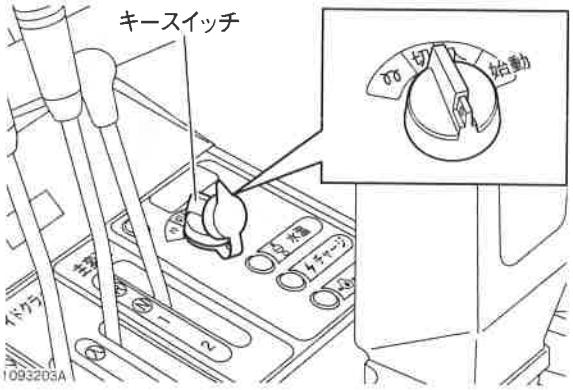
③主変速レバーを「**N**」位置にします。



④アクセルレバーを「**停**」位置にするとエンジンが停止します。



⑤キースイッチを「**切**」位置にします。



4. 走行のしかた

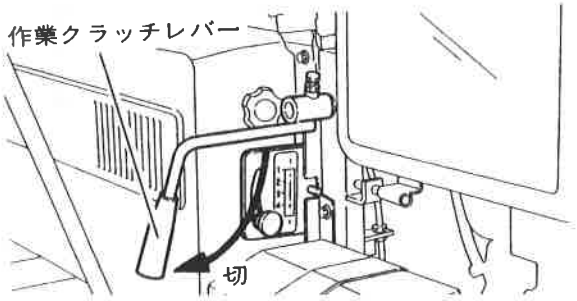
⚠危険

- **籾受台は、必ず収納し機体の上には、人・籾・物などを乗せないでください。ケガをするおそれがあります。**

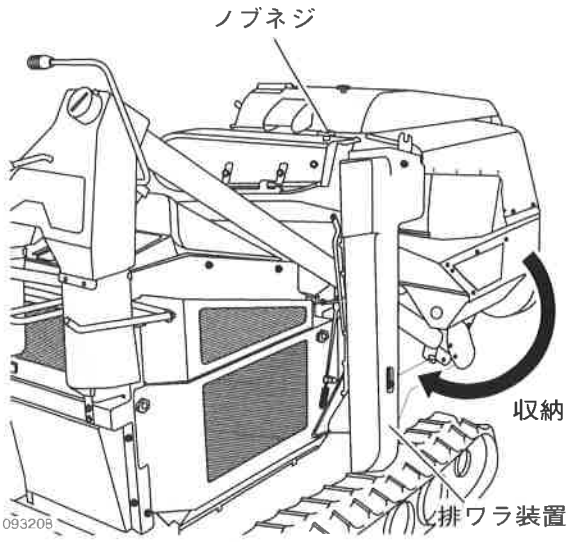
⚠警告

- **旋回をするとき、および急な坂道（約10度以上）や、傾斜地を走行するときは、必ずアクセルレバーを「低」位置にしてください。ケガをするおそれがあります。**
- **坂道、凹凸、カーブの多い道では、必ず低速で走行し、もっとも安全に通行できる所を選んで通ってください。**
- **本機から離れるときは、平たんで安全な場所に置き、エンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。**
- **坂道で駐車するときは、木片などで車止めをして、暴走を防止してください。**
- **後進するときは、後方に注意して、エンジンを低速回転状態にしてください。**

①作業クラッチレバーを「切」位置にします。

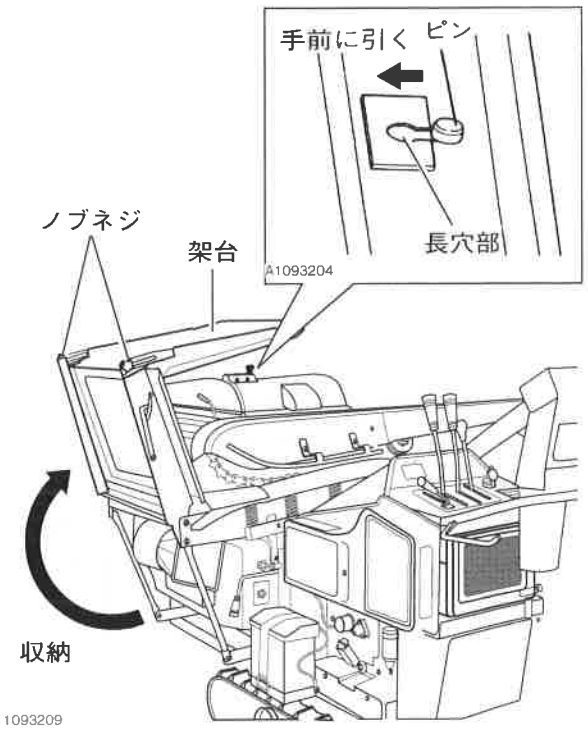


②排ワラ装置を固定しているノブネジをゆるめ、排ワラ装置を収納します。

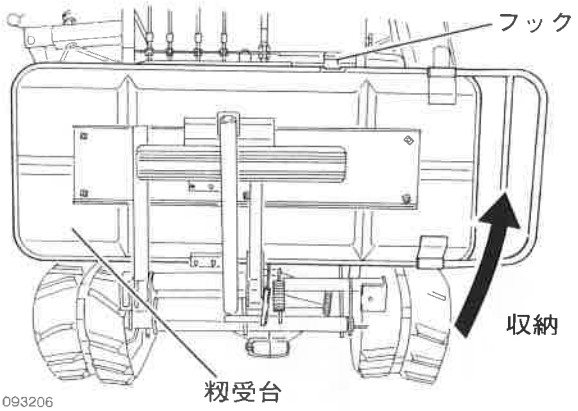


③架台のノブネジをゆるめて、架台を折りたたみ、こぎ胴カバーのピンに架台を挿入します。

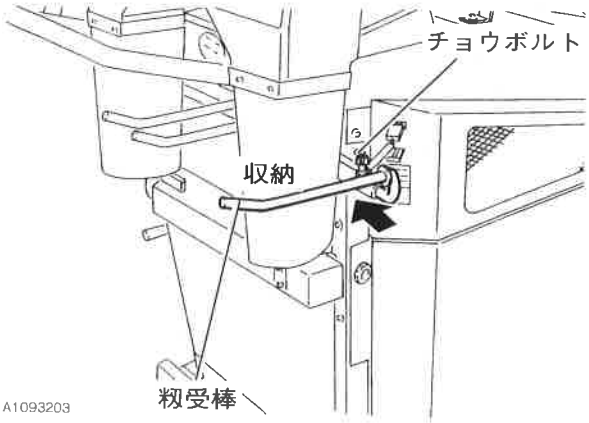
④ピンが長穴部へ入るように少し押しつけ、手前に引いて固定し、ノブネジで架台を固定します。



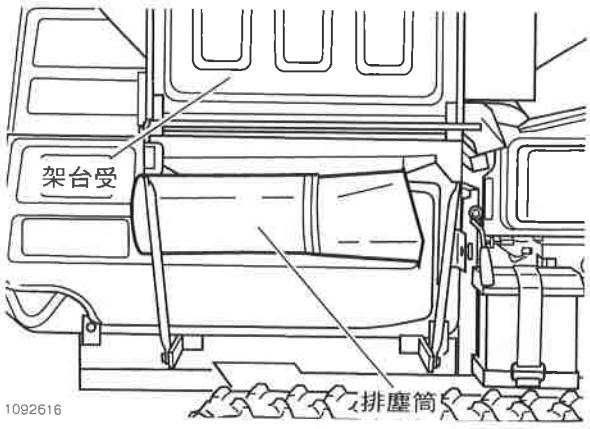
⑤籾受台を少し持ち上げて左側へスライドさせ、籾受台をフックに引掛け収納します。



⑥チョウボルトをゆるめ、籾受棒を左側へスライドさせて収納します。

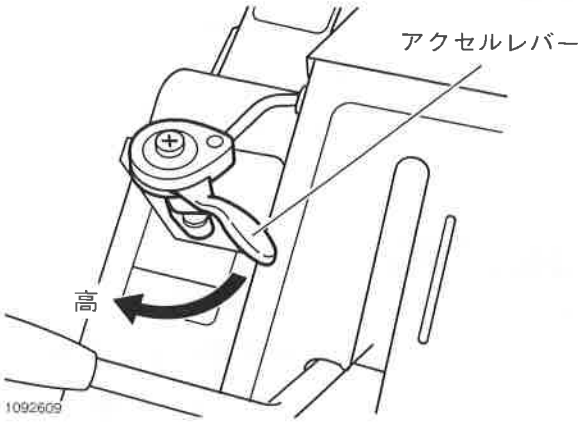


⑦本機前から排塵筒を外し、架台受の下側に差込み、収納します。

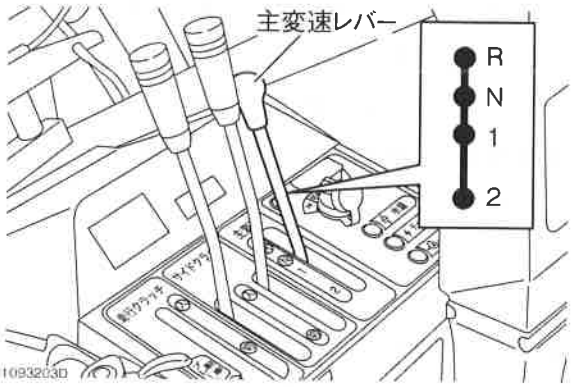


⑧エンジンを始動します。

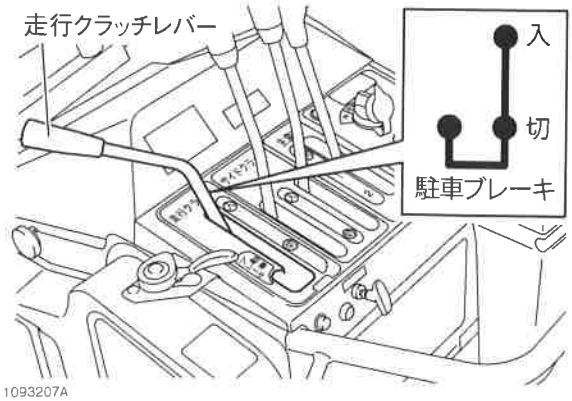
⑨アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



⑩主変速レバーを希望の速度に入れます。



⑪走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置から外し、徐々に**「入」**位置にして前後左右に十分注意して、ゆっくり発進します。



5. トラックへの積込み・積降ろし・あぜ越えのしかた

⚠警告

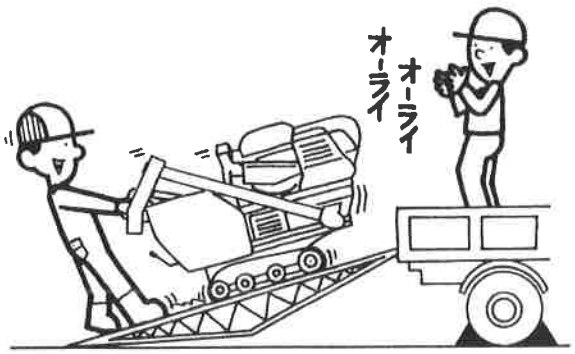
- トラックは平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- トラックは駐車ブレーキをかけ、車輪に車止めをしてください。
- サイドクラッチレバーは、アユミ板の上では操作しないでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、充分ご注意してください。
- トラックに積んで走るときは、丈夫なロープを本機の「ロープフック部」に掛け、確実に固定してください。さらに歯止めをし駐車ブレーキをかけてください。
- クローラがアユミ板に対して真っすぐになっていることを確認後、積込み、積降ろしを行ってください。

⚠注意

- 積込み・積降ろし時は、あぶないので機械の直前・直後には立たないでください。

トラックへの積込み・積降ろし

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
②基準に合ったアユミ板を使用してください。
③籾受台・排ワラ装置・架台・排塵筒を収納します。
④積込みの場合は「**前進１速**」、積降ろしは「**後進**」にして、エンジン回転を極力落として行います。
⑤積込み・積降ろしの最中は、常にブレーキを操作できる位置にいるようにしてください。



1091809A

〈アユミ板の基準〉

アユミ板は基準に合った、充分な強度のあるものを使用してください。

- **長さ…車の荷台高さの４倍以上。**
- **幅…30 cm以上。**
- **強度…1 枚が 500kg に十分耐えられるもの。**
- **すべらないように処理してあるもの。**
- **トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。**

あぜ越え

⚠注意

- あぜ越えは低速であぜに対して直角にゆっくりと行ってください。
- 高いあぜを越えるときは、アユミ板などを使用してください。

作業のしかた

1. 作業条件とほ場条件

作物の条件

朝霧や降雨などによるぬれや多湿状態の作物は、脱こく能率の低下だけでなく、選別不良・詰まりの原因にもなりますので、作物は十分乾燥させてください。

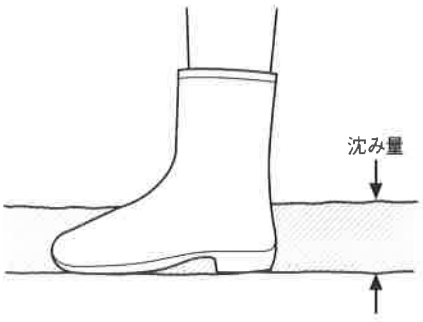


1092651

ほ場の条件

足の沈みがくる節（約６cm）までのぬかるみであれば作業できます。ただし、一度通ったクローラ跡を通らないようにしてください。

※作業がやりやすいように、なるべくほ場を乾かしてください。



A3037319

2. 脱こく作業のしかた

⚠危険

- 作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転部に巻き込まれたり、旋回時の接触事故をまねくおそれがあります。
- ワラクズが堆積している付近に機械を止めて、脱こく作業をしないでください。マフラーの熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすおそれがあります。
- エンジンやマフラーにワラクズがたまらないように掃除をしてください。ワラクズがたまると火災になるおそれがあります。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で後進してください。
- エンジン回転中、回転部に手や指や身体を絶対近づけないでください。ケガをするおそれがあります。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止してから点検してください。
- ワラクズを取り除くとき、および排ワラがつまった場合には、必ずエンジンを停止してから取除いてください。
- 作業をするときは、チェンなどに十分注意してください。服のそでや、手が巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
- 作業中はカバー類やフタは必ず閉めてください。ケガをするおそれがあります。
- 発進および作業クラッチを入れるときは、周囲の人がケガをしないように合図をし、安全の確認をしてください。

⚠警告

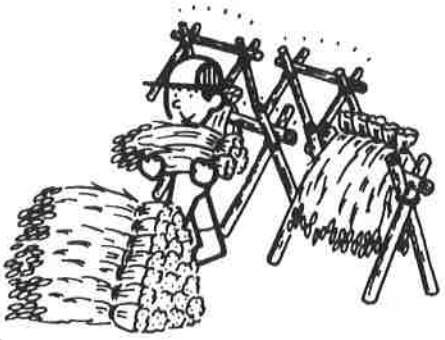
- **脱こくをするときは、手や腕の位置を必ずフィードチェンの外側（本機から離れる位置）にして、作物を少量ずつ供給してください。また､指先や作業服がフィードチェンに巻き込まれないように十分注意してください。巻き込まれると、ケガをするおそれがあります。**
- **服装はだぶつきが無く、そで口をきっちり止めて、はち巻き・首巻き・腰タオルは絶対にしないでください。また、手袋は使用しないでください。チェンに巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **脱こく部の入口にたまったワラや籾などを、脱こく部内に押し込むときは、必ずエンジンを停止してください。チェンやこぎ胴に巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **万が一、手や服の袖などが巻き込まれた場合は、作業クラッチを「切」位置にしてください。脱こく部が停止し、作業を中止できます。**

能率の良い作業をするために

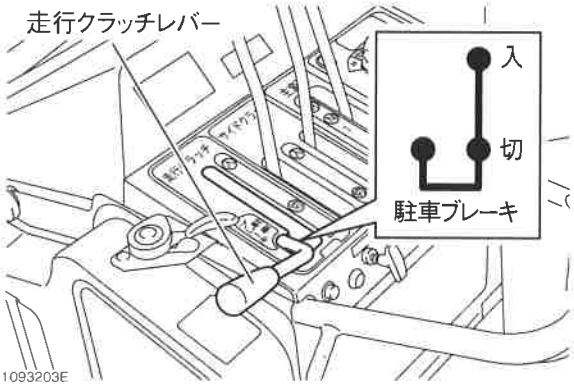
脱こく作業にかかるまでに、刈取った作物をあらかじめほ場の数箇所に集めておくと、能率良く作業することができます。



1092650

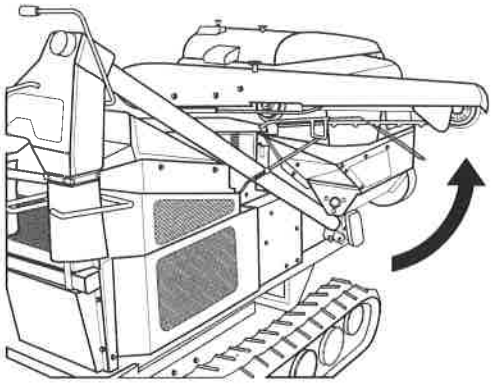
脱こく作業のしかた

①走行クラッチレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にします。

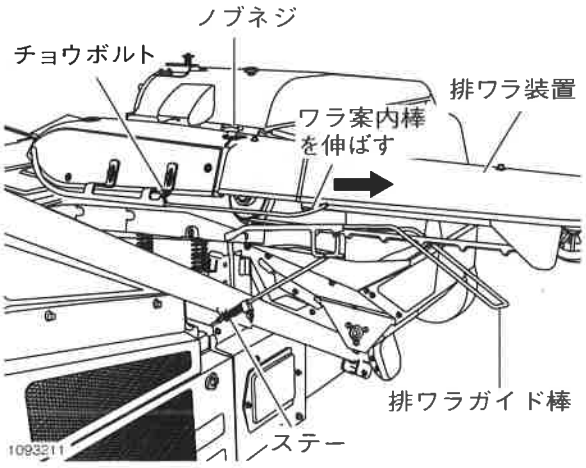


1093203E

②排ワラ装置をフィードチェンカバーにノブネジで固定します。

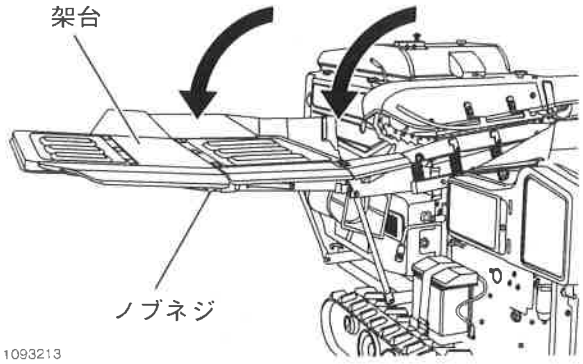


1093210



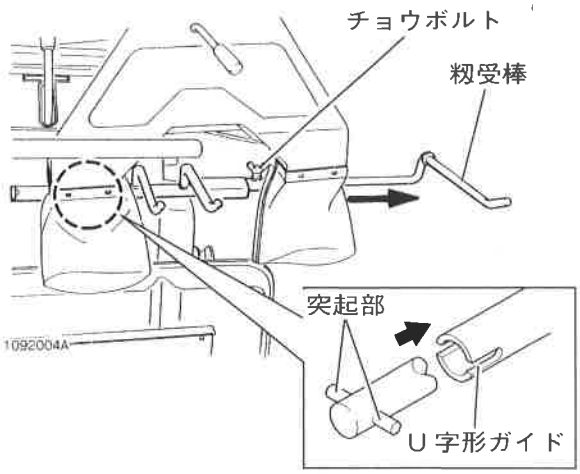
1093211

③折りたたんで収納されている架台のノブネジをゆるめ、架台を広げてノブネジで固定します。



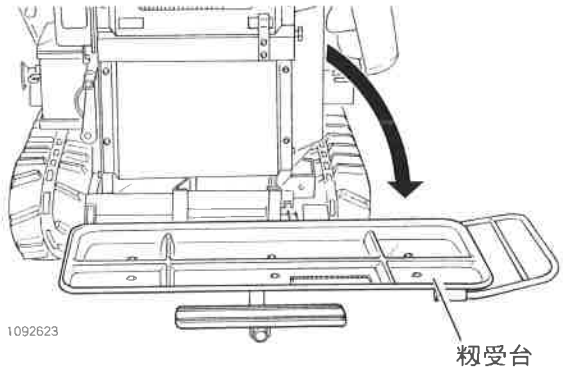
1093213

④収納されている籾受棒のチョウボルトをゆるめ、籾受棒を右側へスライドさせ、突起部をU字形ガイドに合わせ水平状態にし、チョウボルトで固定します。



1092004A

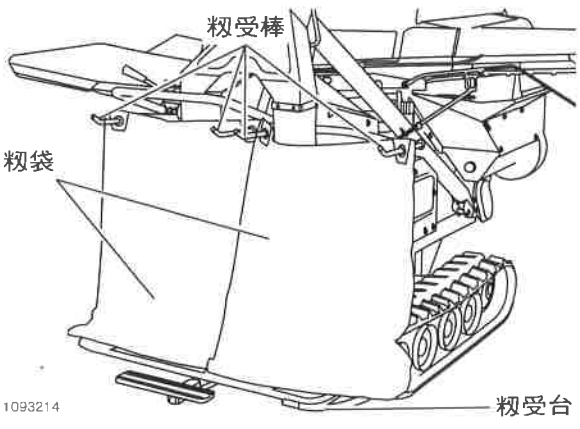
⑤収納されている籾受台をフックから外し、右側へスライドさせて、止まった位置で静かに降ろします。



1092623

⑥左右1対の籾受棒に籾袋を掛け、籾投口にセットします。

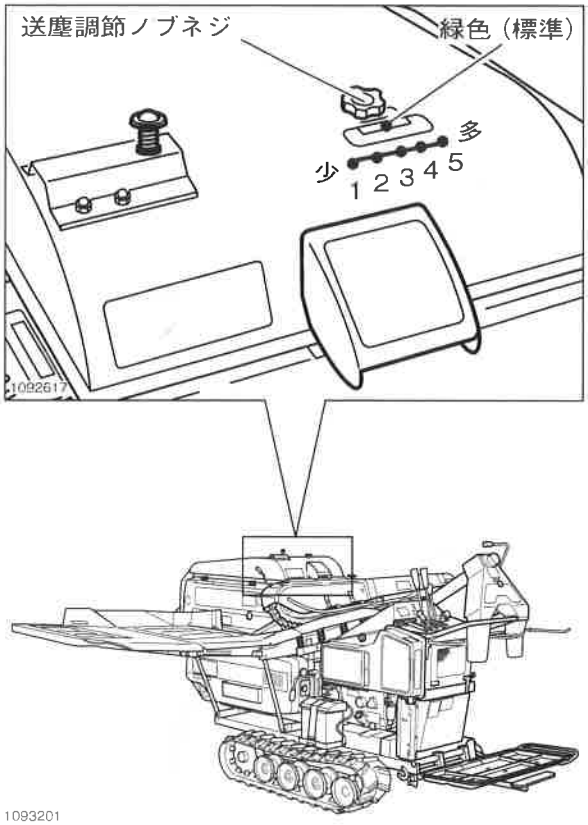
※籾袋は一度に10～15枚ずつ掛けられます。



1093214

⑦送塵調節ノブネジを緑色の目盛（標準）にセットします。

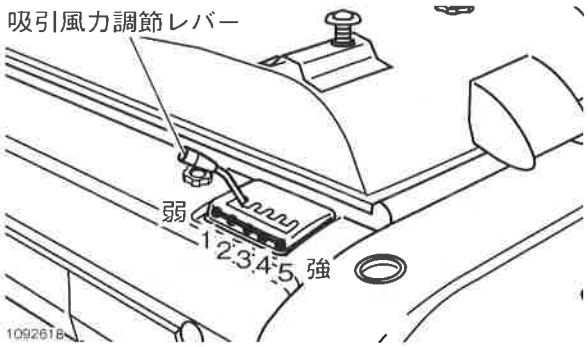
※作業を始めたら、必要に応じて後述の要領で調節してください。
（45 ページ参照）

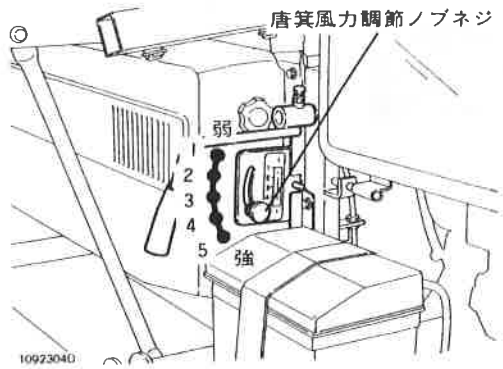


⑧作物の状態に合わせて、吸引風力調節レバーおよび唐箕風力調節ノブネジをセットします。

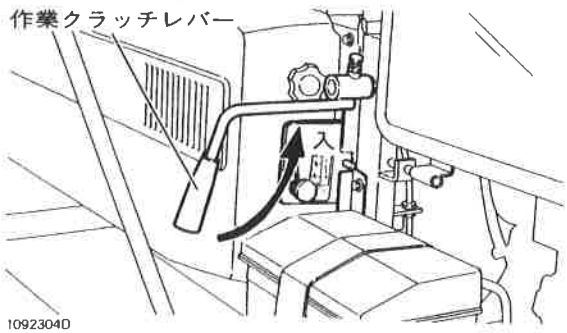
作物の条件	吸引風力調節レバーの位置	唐箕風力調節ノブネジの位置
よく乾燥した稲	弱	弱
乾燥稲	標準	標準
湿った稲および麦	強	強

※作業を始めたら、必要に応じて後述の要領で調節してください。
（45 ページ参照）

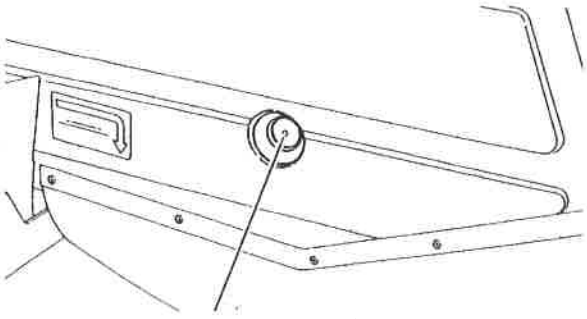




⑨エンジンを始動させ、作業クラッチレバーを「入」位置にします。



⑩作業中に回転計の中心で、赤丸が静止した状態になるように、アクセルレバーで調節します。



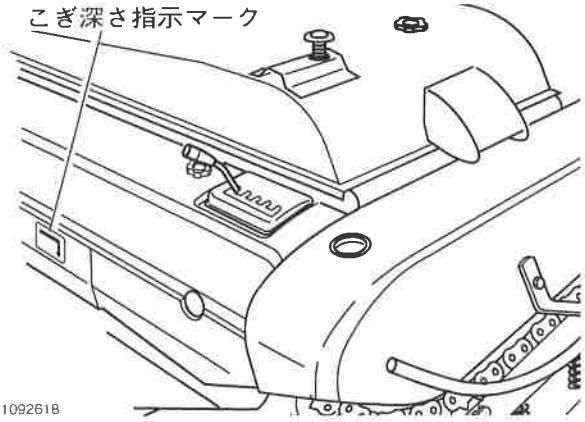
回転計（赤丸が静止した状態）

106218-00JA01

【取扱いの注意】

●規定回転がでていないと、こぎ残しが多くなったり、能率が上がらなくなったり、脱こく内部に詰まったりすることがあります。また、回転が高すぎると、脱ぷやロスがでます。

⑪脱こく部入口のこぎ深さ指示マーク（赤矢印）に穂先がくるように、稲束を供給します。



1092618

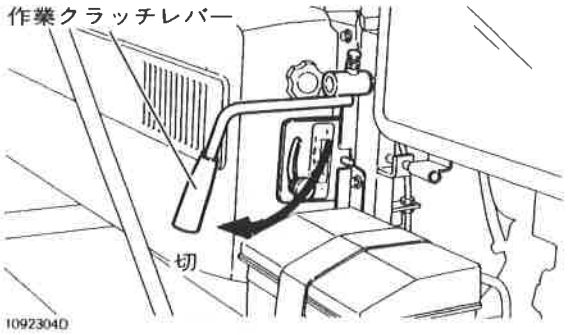
※穂先から先に、こぎ胴に供給するようにしてください。稲束の稈元から先に、こぎ胴に供給すると穂先が切れたり、チリが発生したりします。

※稲束を広げて均等な量を連続して供給してください。

【取扱いの注意】

●正しい稲束供給を行わないと、馬力を浪費するだけでなく、ワラ束を損傷し、排塵量が多くなり選別不良、能力低下の原因になります。

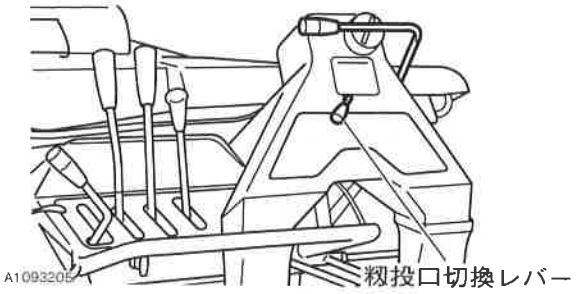
⑫供給束がなくなったら、籾投口より籾が出なくなったことを確認後、作業クラッチレバーを「切」位置にして、次の稲集積場所へ本機を移動します。



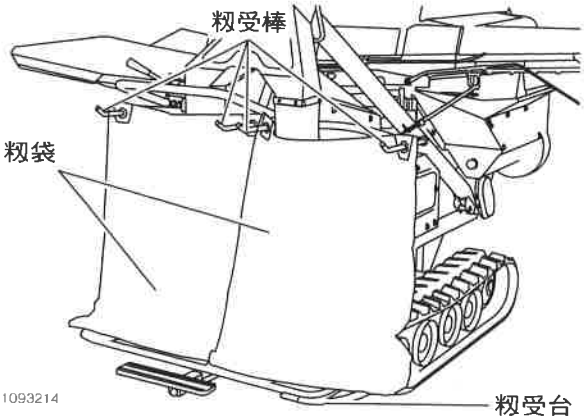
1092304D

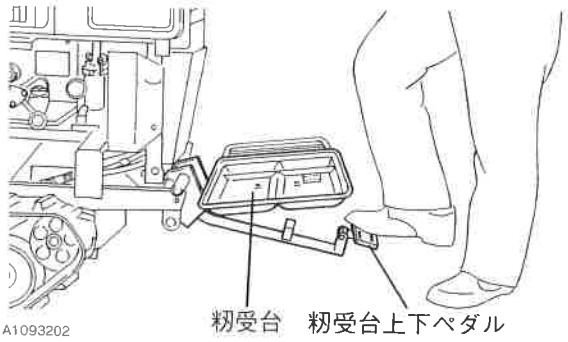
籾袋の交換のしかた

籾は籾投口切換レバーの方向に流れます。籾出口の籾警報ブザーが鳴ると、片方の袋に籾がいっぱいになったときです。
下記の手順で籾袋を交換してください。
①籾投口切換バーをもう一方に切り換えます。



②一杯になった籾袋のチャックを締め、籾受台上下ペダルを踏んで、籾受棒から籾袋を取り外します



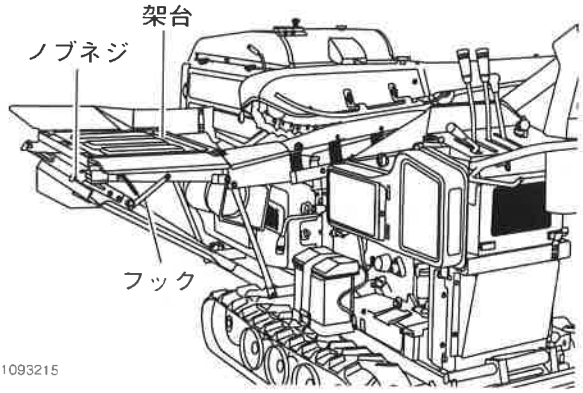


※籾受台には、満杯の籾袋を２袋おく事ができますが、機体が後傾となり選別性能が悪くなったりするおそれがありますので、満杯の籾袋は早目に降ろしてください。

3. 作業に適した調節のしかた

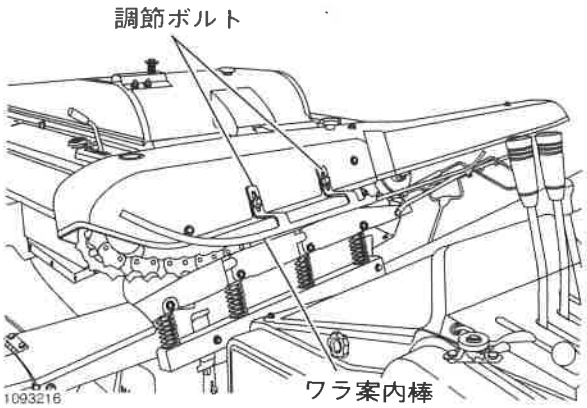
稲木掛け状態の作物を処理する場合の調節

１人で、稲木掛け状態の作物を処理するときには、架台を折り曲げて使用します。
①ノブネジをゆるめ架台を引っ張ります。
②架台を下に折り曲げて、フックに引っかけた後、ノブネジを固定します。



ワラ案内棒の調節のしかた

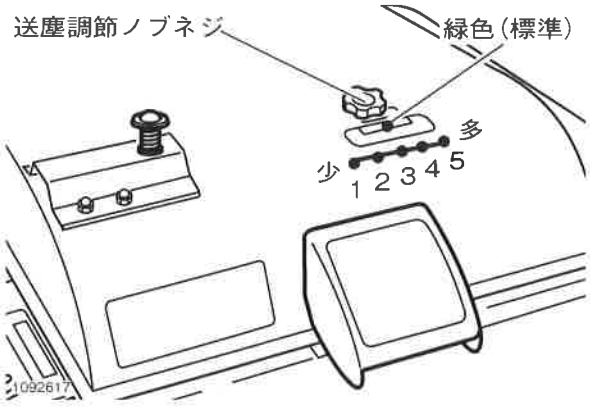
供給束の大きさに合わせて、ワラが脱こく機内に抜取られず、稲束を無理に締めすぎない程度に調節します。
調節方法は、ワラ案内棒の調節ボルトで調節します。



送塵調節のしかた

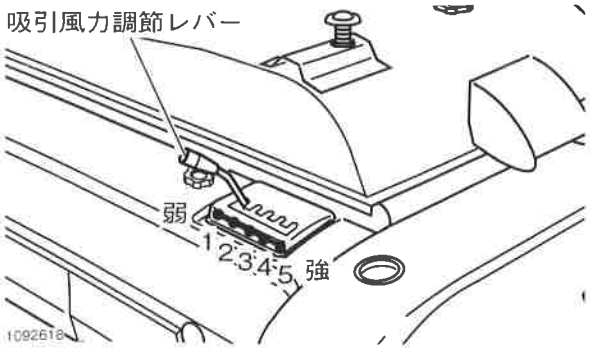
稲・麦または品種、乾湿などによって、こぎ胴カバー上の送塵調節ノブネジで調節します。(緑色の目盛が標準です)

作物・作業の状態	送塵調節ノブネジ
乾燥した稲・麦の場合	3～1
枝梗の出る場合	1
湿った稲・麦の場合	3～5
こぎ室で異音が発生する場合	5



吸引風力回転の調節のしかた

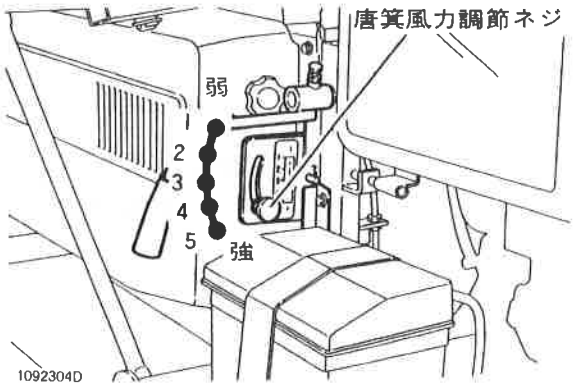
レバーを「**強**」側にすると吸引風力が強くなり、「**弱**」側にすると吸引風力が弱くなります。(緑色の目盛が標準位置です)
排塵口に籾の飛散が多いときは、吸引風力調節を「**標準**」から「**弱**」側へ、一番口選別が悪いときおよび湿った稲麦の場合は「**標準**」から「**強**」側へ調節します。



唐箕風力の調節のしかた

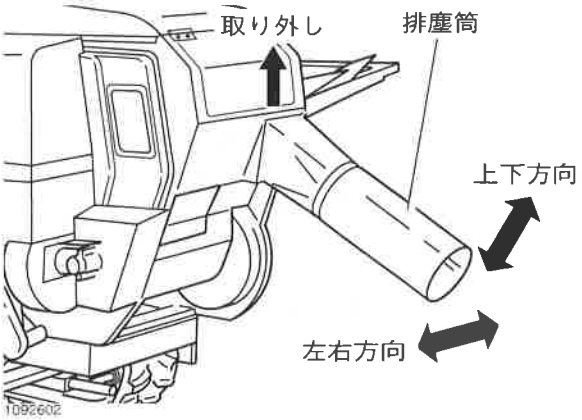
唐箕風力調節ノブネジを「**弱**」側にすると風力が弱くなり、「**強**」側にすると風力が強くなります。(緑色の目盛が標準です)
下表を参考に調節してください。

作物・作業の状態	送塵調節ノブネジ
排塵口にこく粒の飛散が多い場合	弱
通常の場合	標準（中央）
麦・湿材の脱こくで選別の悪い場合	強



排塵筒の調節のしかた

作業状態および風向きに応じて、排塵筒の向きを変更できます。排塵筒を本機から取り外し、向きを変えて本機に取り付けます。



麦作業のしかた

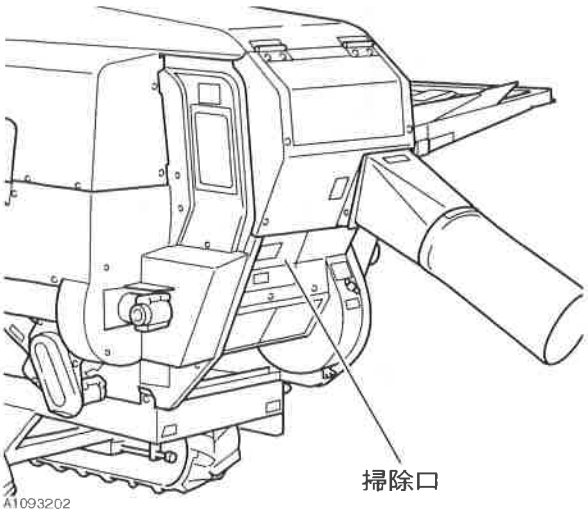
〈麦用方向板の取付要領〉

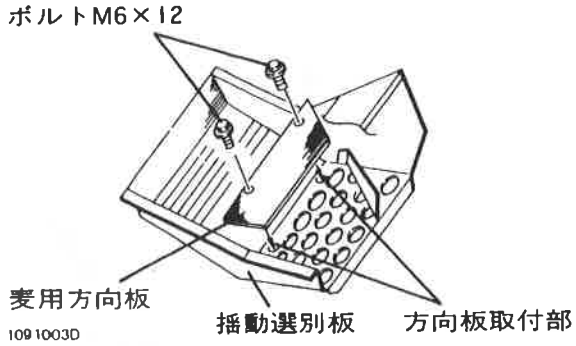
通常の麦作業は稲作業と同じですが、選別をよりいっそう良好にすめため、付属部品の麦用方向板を以下の要領で取り付けてください。

【取扱いの注意】

●稲脱こく時は必ず元に戻してください。

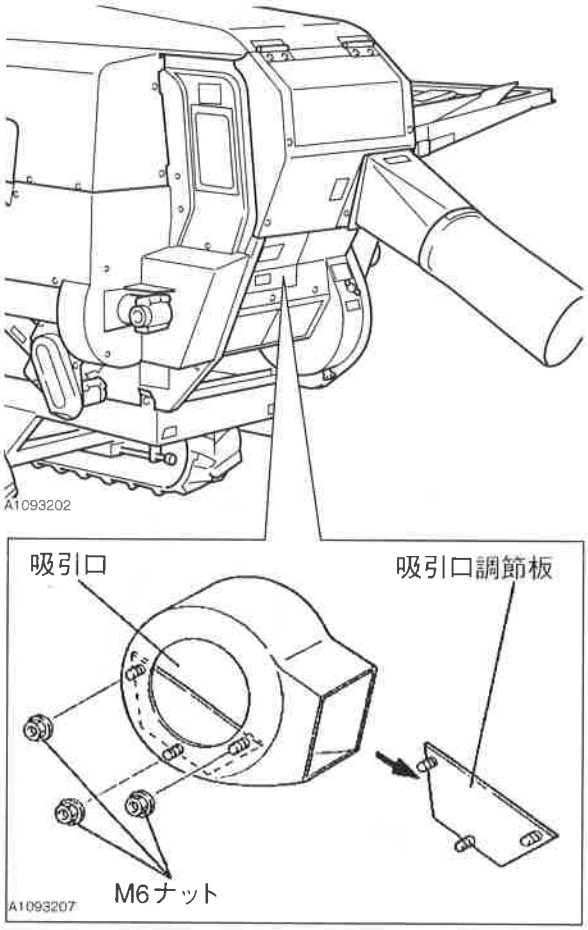
掃除口を開き、揺動選別板のボルト（6×12）2本を取り外し、その箇所に麦用方向板を共締めしてください。



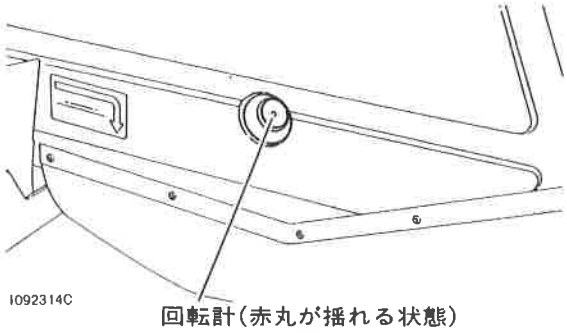


また特に湿った麦や高能率での作業時に吸引力・唐箕風力を「強」にしても、なお吸引口や2番スロワへのワラの滞留があるときは、以下の要領で調節してください。

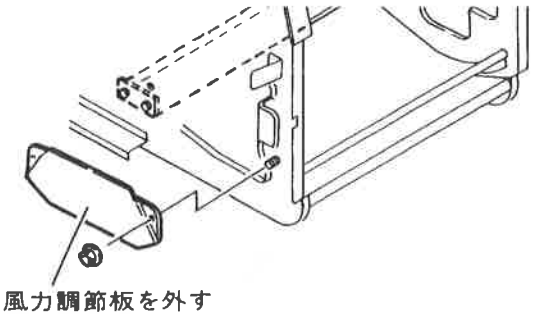
①掃除口を開いて、吸引口のM6ナット3個を外し、吸引口調節板を取り外してください。



②吸引風力調節レバーを「4」または「5」の位置にします。
③唐箕風力調節ノブネジを「強」位置にします。
④作業中、回転計の赤丸が静止状態より少し高めに（赤丸が振れる状態）なるよう、アクセルレバーで調節してください。
※回転が低いと選別が悪くなります。



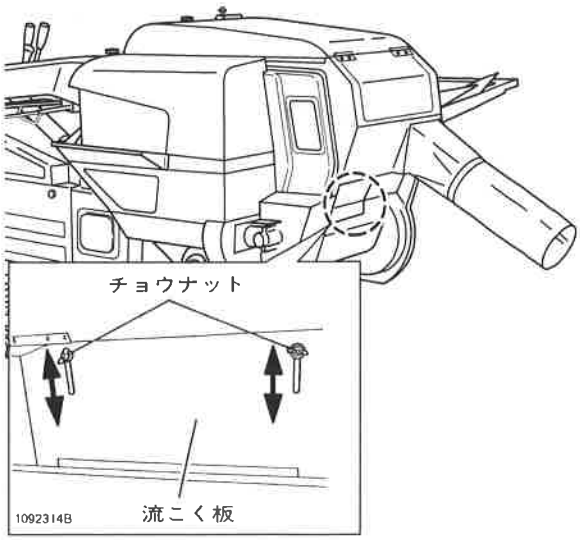
※回転が下がると２番スロワや排塵部が詰まります。
⑤風力調節板を取り外します。



【取扱いの注意】
●稲脱こく時は必ず取り付けてください。

流こく板の調節のしかた

〈稲や麦作業で選別が悪く穂切れが多く入る場合〉
チョウナットをゆるめ、流こく板を下方に調節してください。
〈脱ぷ等の損傷粒が多い場合〉
唐風箕風力を弱め、流こく板を上方に調節してください。



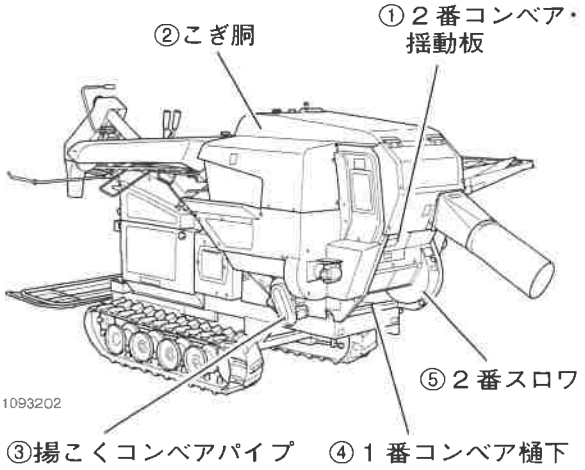
作業後の手入れについて_正しい手入れを行ってください。

1. 脱こく内部の清掃

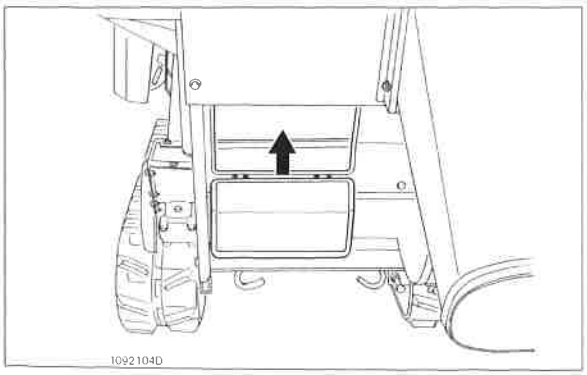
⚠警告

- **清掃をするときは、必ずエンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械が動きだし、ケガをするおそれがあります。**
- **回転部の清掃をするときは、必ずエンジンを停止してください。手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。守らないと、ケガを負うおそれがあります。**

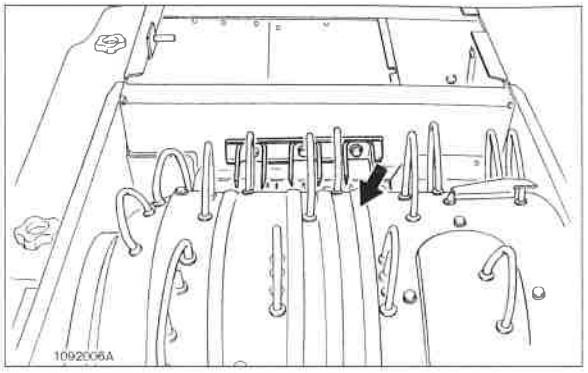
異品種や稲・麦の混種を防ぎ、脱こく内部の残粒を取除くため、各部の掃除口を開け、きれいに掃除してください。



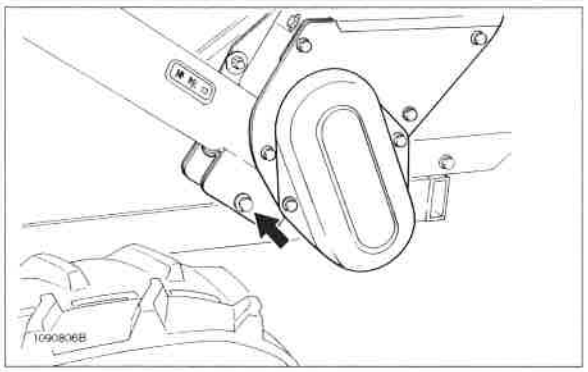
①２番コンベア・揺動板



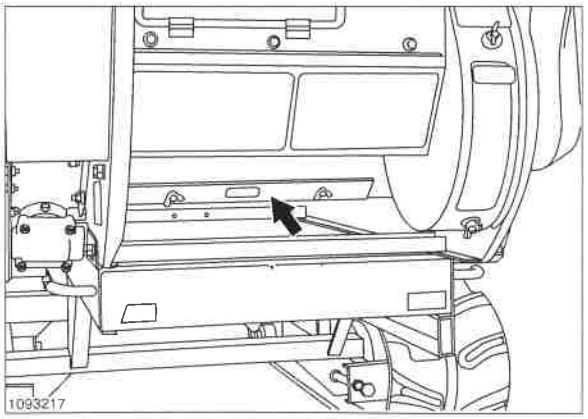
②こぎ胴



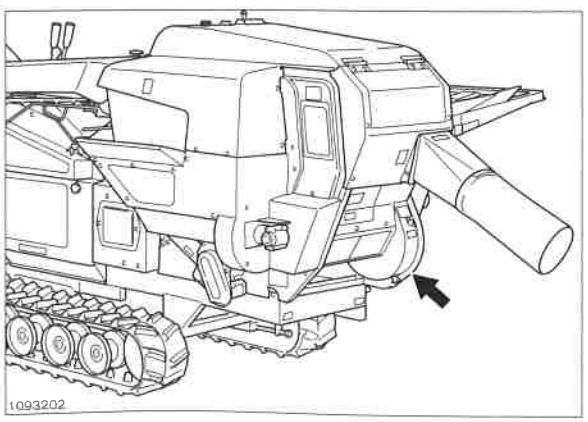
③揚こくコンベアパイプ



④１番コンベア樋下

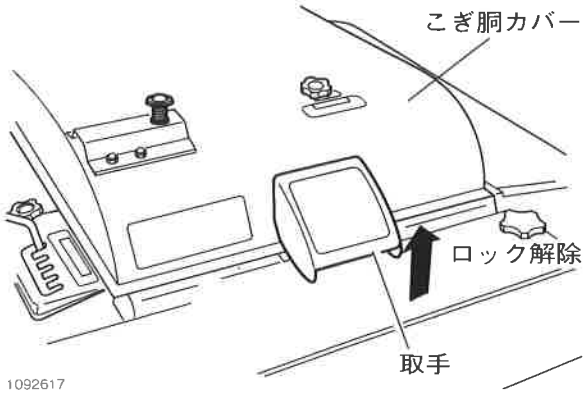


⑤２番スロワ

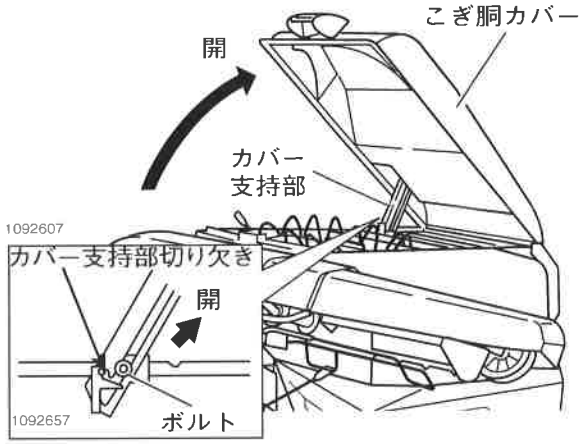


こぎ胴カバーオープンのしかた

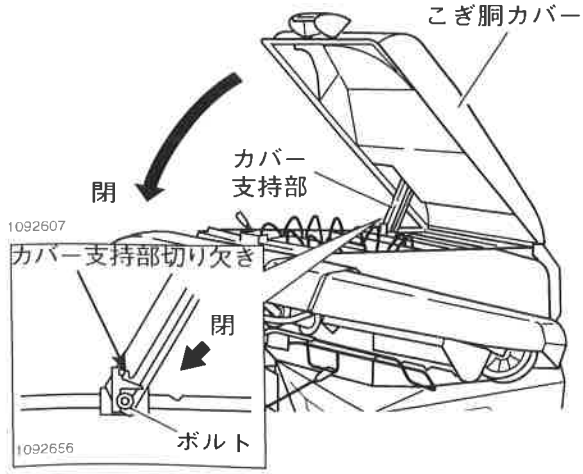
①こぎ胴カバーの取手を上に上げると、こぎ胴カバーのロックが解除されます。



②こぎ胴カバーを開き、ボルトをカバー支持部の切り欠きに合せ、こぎ胴カバーを開いた状態で固定します。



③閉めるときは、こぎ胴カバーを少し開き、ボルトをカバー支持部の切り欠きから外し、こぎ胴カバーを閉め、取手をロックします。



2. 作業後の手入れ

⚠警告

●清掃する場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

その日の内に、各部に付着した泥などの汚れを、きれいに水洗いをし、水洗い後は良く水分をふきとってください。また、チェン・ワイヤー類は、注油箇所に十分注油しておきます。

【取扱いの注意】

●水洗いをするときは脱こく部やエンジン部や電装品にはできるだけ水をかけないでください。故障の原因になります。



3. 長期間使用しないときの手入れ

①外部のサビやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

②バッテリを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ず（－）側を外してください。

③冷却水はドレンコックを「**開**」位置にし、冷却水をすべて抜きとってください。



手入れと点検・調整 －定期的に正しい点検をしてください。

⚠警告

- **点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。ケガをするおそれがあります。**
- **室内で点検する場合は、十分換気してください。エンジンの排気ガスで中毒をおこすおそれがあります。**
- **エンジンのマフラーなど高温部にはさわらないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。守らないと、ケガを負うおそれがあります。**

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１年毎にお買い上げ先で定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。特に燃料パイプなどのゴムホース類は２年毎に交換し、電気配線は被覆のはがれや傷などによりショートし、火花で火災を誘発したりしてたいへん危険です。毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1. 点検箇所一覧表

点検・調節箇所	規定量	内　　容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイルの交換	1.8L	●ディーゼルエンジンオイル 10W-30(CD 級)	1 回目：20 時間 2 回目以後：100 時間ごと	53
走行ミッションオイルの交換	1.5L	●ミッションオイル 90 番	1 回目：50 時間 2 回目以後：100 時間ごと または 1 シーズンごと	54
脱こくギヤボックスのオイル交換	0.08L	SAE120 番	100 時間ごと または 1 シーズンごと	54
燃料の補給	6.5L (有効 6.2L)	ディーゼル軽油 (JIS K2204-2 号)		57
冷却水の交換のしかた	1.25L	三菱純正不凍液	1 シーズンごと	59
エアクリーナーエレメントの掃除	—	—	1 日 2 ～ 3 回	58
吸気口の掃除	—	—	1 日 2 ～ 3 回	60
燃料コシ器の掃除	—	—	500 時間ごと	57
脱こく切刃の点検・交換	—	本機より取り外して点検・交換	1 シーズンごと	61
サイドクラッチレバー		マークの「切」位置で切れること		62
エンジン冷却ファン駆動ベルトの調節のしかた	15 ㎜	指で押したときのたわみ量		63
ミッション駆動ベルト	15 ～ 20 ㎜	走行クラッチ「入」位置で、指で押したときのたわみ量		62
脱こく部駆動ベルト	15 ～ 20 ㎜	指で押したときのたわみ量		65
こぎ胴・選別部駆動ベルト	15 ～ 20 ㎜	指で押したときのたわみ量		63
吸引駆動ベルト	—	ベルトと吸塵ファンプーリの外端を合わす		64
クローラの張り	7 ～ 10 ㎜	両手で引張り上げたとき（20 ～ 30 kg）の量		66
バッテリ液量	液面線	精製水		68
ヒューズの交換		バッテリ……20A 警　　報……10A		60
燃料パイプ・ホース類	—	劣化や傷がないこと	2 年ごと	—
電気配線	—	断線や被覆のはがれがないこと	50 時間または 1 年ごと点検	—
こぎ胴セットボルト増締	—	スパナで増締		—
脱こくこぎ歯の点検増締	—	スパナで増締		—
各プーリセットボルトの増締	—	スパナで増締		—
バッテリバンド	—	劣化や傷がないこと	50 時間または 1 年ごと点検	—

2. 各部オイルの点検・交換のしかた

エンジンオイル

⚠警告

●エンジンが高温の時は交換しないでください。ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

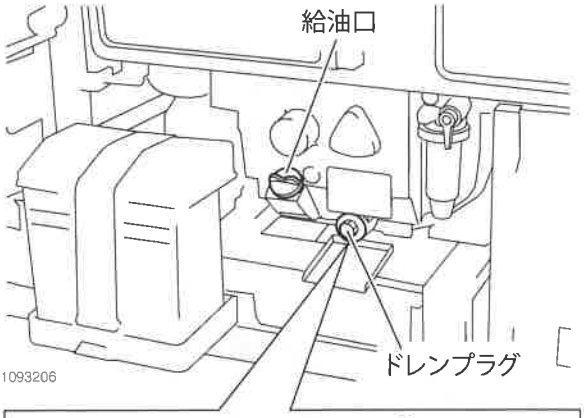
〈交換のしかた〉

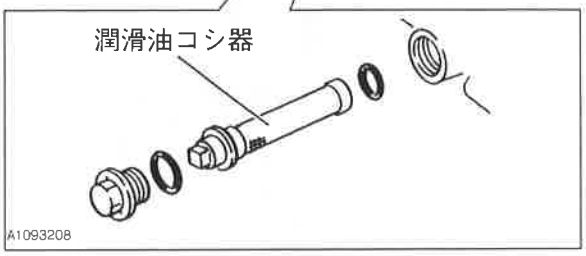
①エンジンクランク室の給油口を外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。

②ドレンプラグ（排油口）内部にある潤滑油コシ器を取り外し、洗油で洗ってください。

③給油は、エンジンオイルを給油口から入れます。

④検油は、オイルゲージを抜いて油をふきとり、もう1度オイルゲージを差込み調べます。（オイルゲージはねじ込まないでください）上限と下限の間に油がついていれば規定量とみなしてください。





推奨オイル	交換時期	規定量
●ディーゼルエンジンオイル 10W-30（CD級）	第1回は20時間目。2回目以後は100時間ごと。	1.8L

【取扱いの注意】

●補給時は、本機が水平状態で補給してください。傾斜状態で補給すると過不足が生じます。

●オイルの補給や交換時は、入れすぎないように注意してください。

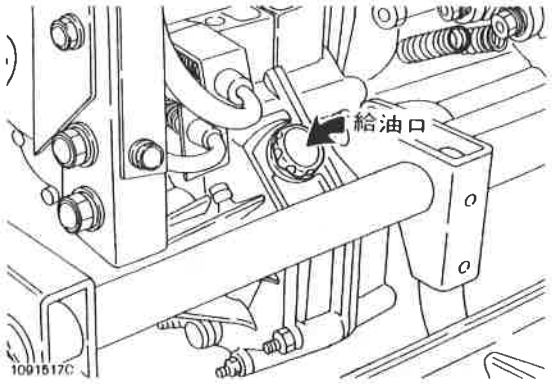
●補給時などこぼれたオイルはきれいに拭きとってください。

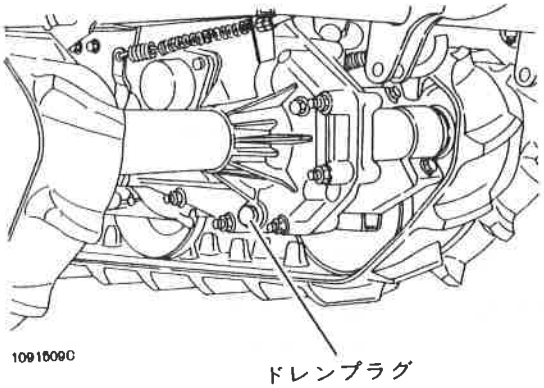
●地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

走行ミッションオイル

①給油口を外してからミッションケース下部にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。
②給油は規定量入れます。

推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	第1回は50時間目。2回目以降は100時間ごとまたは1シーズンごと。	1.5L





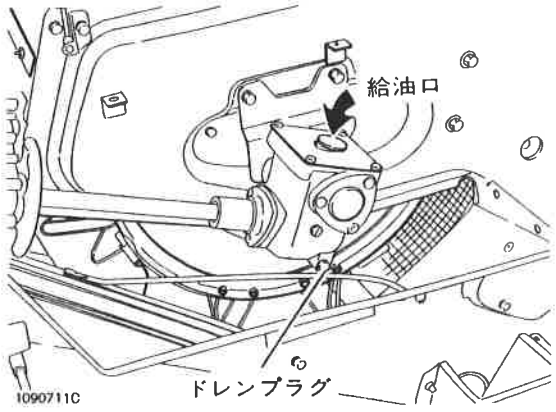
【取扱いの注意】

- **補給時などこぼれたオイルはきれいに拭きとってください。**
- **地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。**

脱こくギヤボックスのオイル

①4番カバー上板を取り外し、給油口を外してから脱こくギヤボックス横下にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。
②給油は規定量入れます。

推奨オイル	交換時期	規定量
SAE120番	100時間ごと。または1シーズンごと。	0.08L



【取扱いの注意】

- **補給時などこぼれたオイルはきれいに拭きとってください。**
- **地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。**

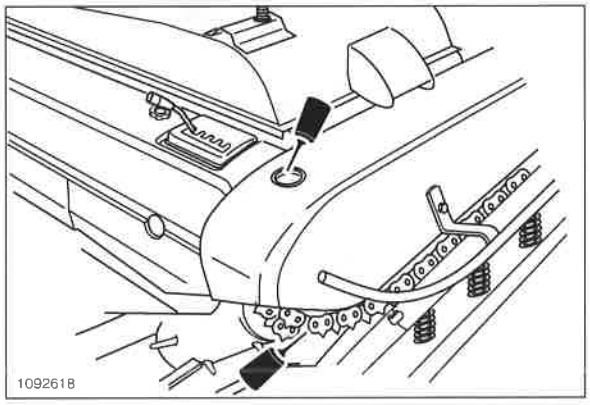
3. 各部注油のしかた

⚠注意

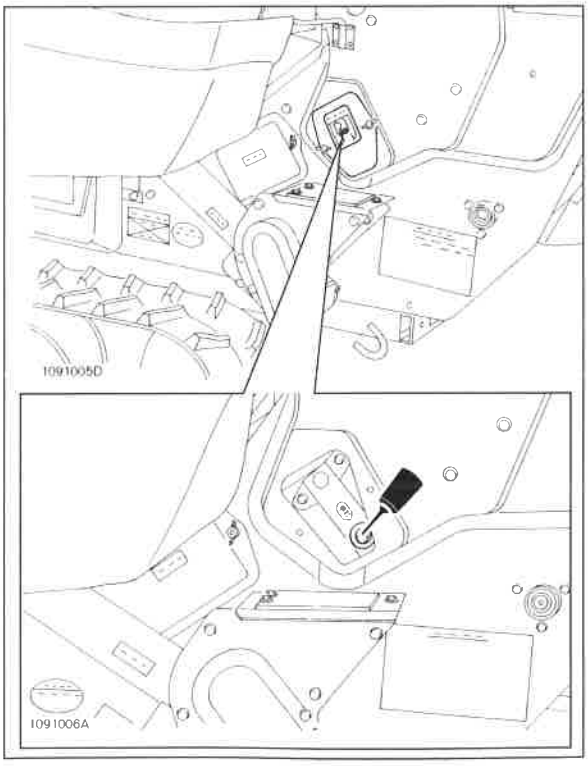
●回転部などへの注油をするときは、必ずエンジンを停止してください。ケガをするおそれがあります。

〈凡例〉
注油 

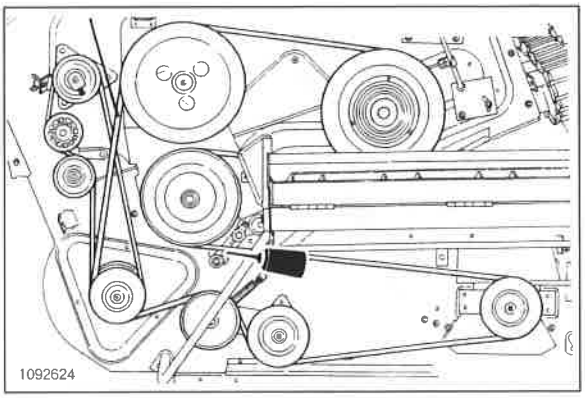
チェン誘導メダル
フィードチェン



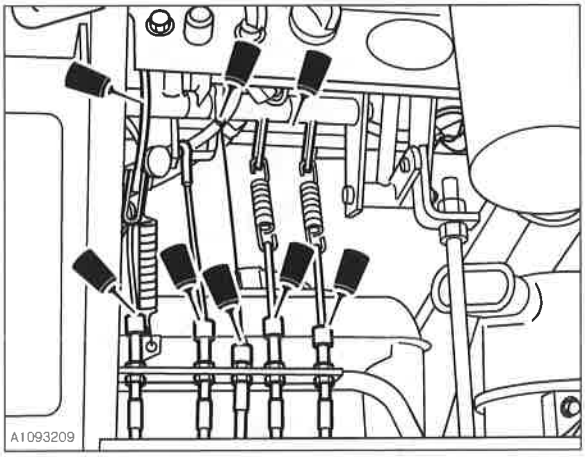
揺動駆動アーム



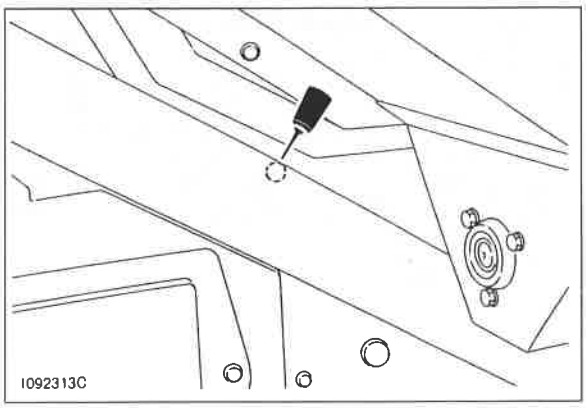
揺動駆動入口側



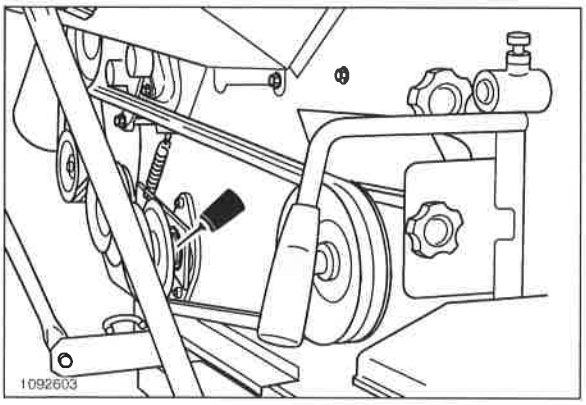
走行クラッチレバー支点
サイドクラッチレバー支点
各ワイヤー摺動部



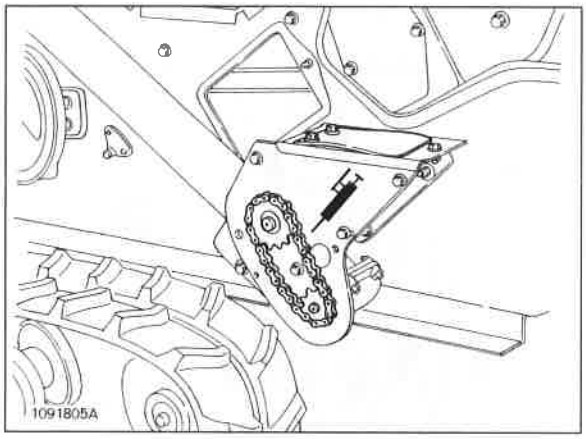
揺動支点部



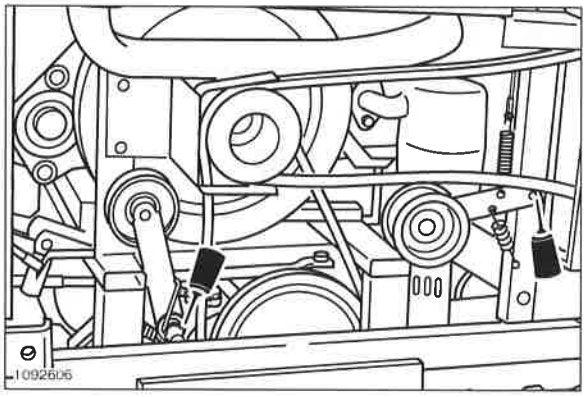
テンションアーム支点



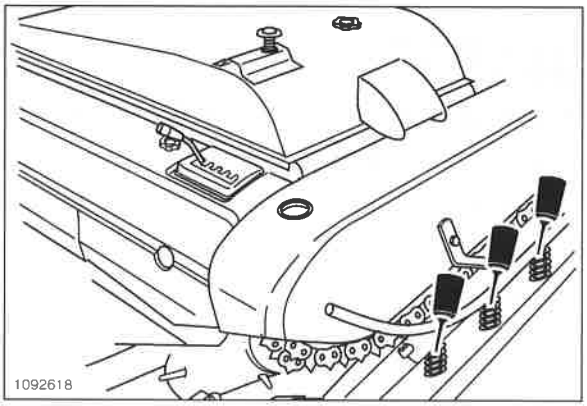
揚こく駆動チェン



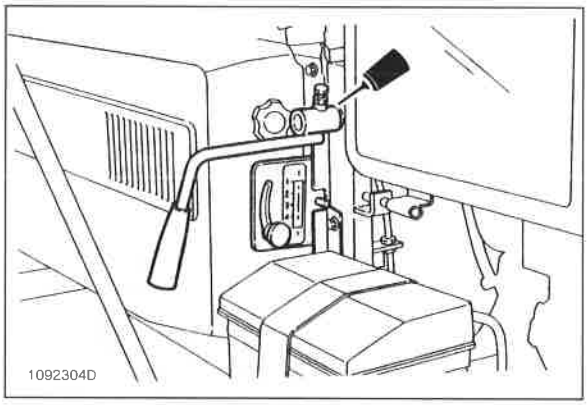
走行クラッチテンション
脱こく駆動テンション軸



ワラ押えスプリング



作業クラッチレバー支点



4. 燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

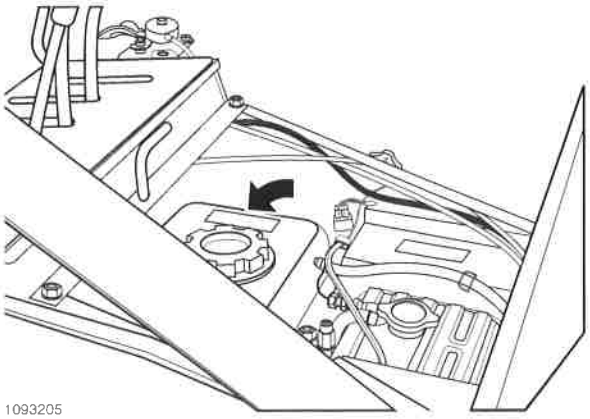
- **給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。**
- **給油中はエンジンを停止してください。**

⚠注意

- **燃料補給時はくわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。**

〈点検のしかた〉

燃料タンクの残量を調べ、不足している場合は、上部の蓋から補給してください。



1093205

5. 燃料コシ器の掃除のしかた

燃料の中には、ゴミや水が入っていたりします。このような時にはコシ器を外してゴミや水を抜き取り、新しい燃料と交換してください。

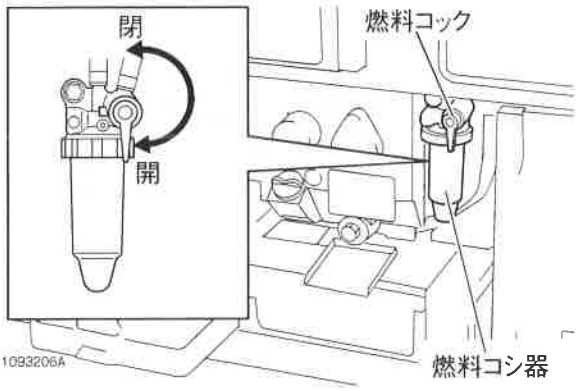
〈燃料コシ器の取り外し要領〉

①燃料コシ器のコックを矢印の方に回します。

②コシ器を外し、水･ゴミを取り除きます。

③コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを元に戻し、燃料を出しながらコシ器内に空気がはいらないように取り付けます。

※空気（エア）が入った場合には、**「燃料の空気（エア）抜きのしかた」**（58 ページ）を参照して空気（エア）を抜いてください。



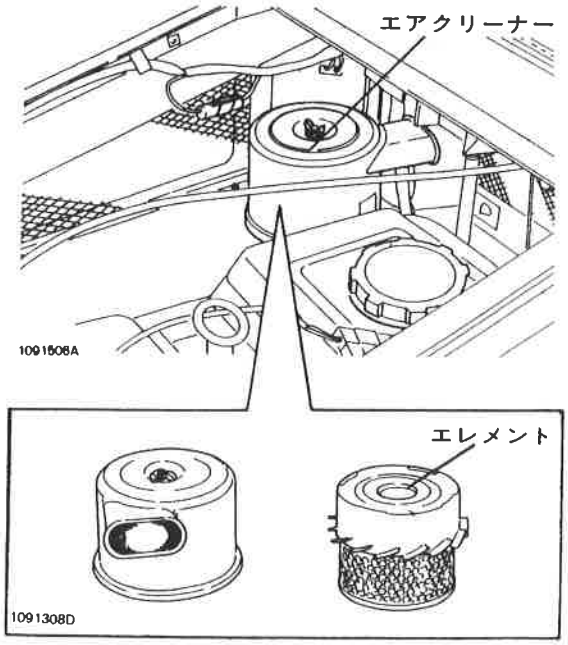
6. エアクリーナーの掃除のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの磨耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。

①エンジン上カバーを開き、エアクリーナーのチョウボルトをゆるめてフタを外し、内部のエレメントを取り出します。
②エレメントに圧縮空気を内部から吹き付け、ゴミ・ホコリを取り除きます。

【取扱いの注意】

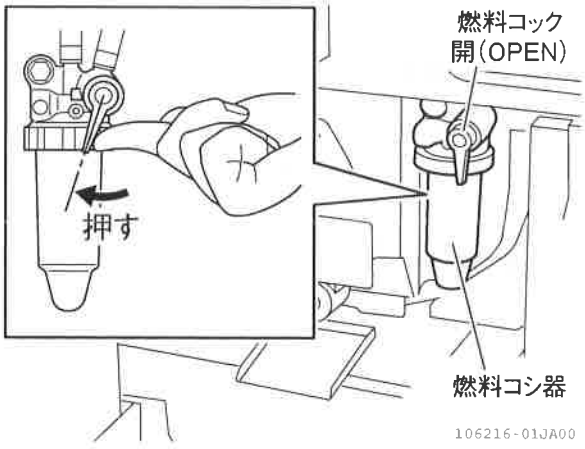
●汚れたまま使用していますと、エンジンの出力低下や故障の原因となります。



7. 燃料の空気（エア）抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。以下の要領で空気抜きをしてください。

①燃料を満タンにしてください。
②燃料コシ器の燃料コックを、矢印方向に約 15 秒間保持してください。自動的に燃料コシ器内の空気抜きが行われます。



③指を離すと、燃料コックは元の位置に戻ります。

8. 冷却水の点検･交換のしかた

⚠危険

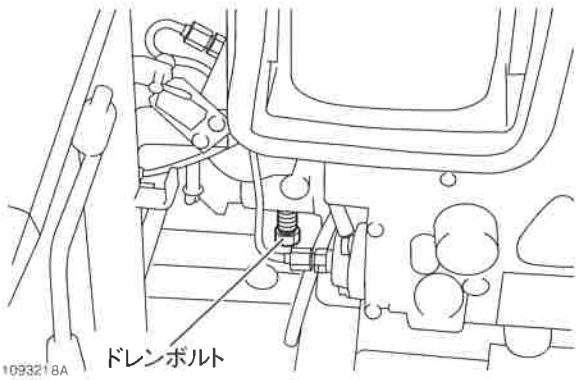
●高温時にはキャップを開けないでください。熱湯が吹きだしやけどをするおそれがあります。

点検

ラジエーター内の残量を調べ、不足している場合は給水口の口元まで入れてください。

交換

①ドレンボルトを外し、冷却水をすべて抜きます。

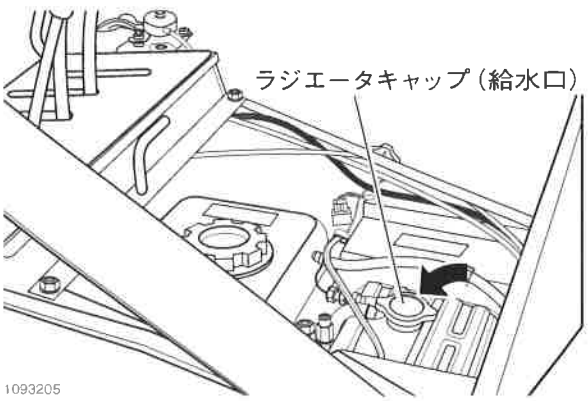


②水道水でゴミや錆が出なくなるまでラジエーター内部を洗います。

※ラジエーター洗浄剤を混合した水を入れ、15 分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエーター内はいっそうきれいになります。

③ドレンボルトを取り付けてください。

④不凍液と水道水を適切な比率でよく混合させた冷却水を、給水口の口元まで給水して下さい。



推奨オイル	交換時期	規定量
三菱純正不凍液	1 年ごと	1.25L

〈不凍液〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時には、不凍液が入っておりますが、冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。不凍液の混合比は、外気温や不凍液のメーカーによって多少異なりますのでメーカーの取扱書等の指示に従ってください。

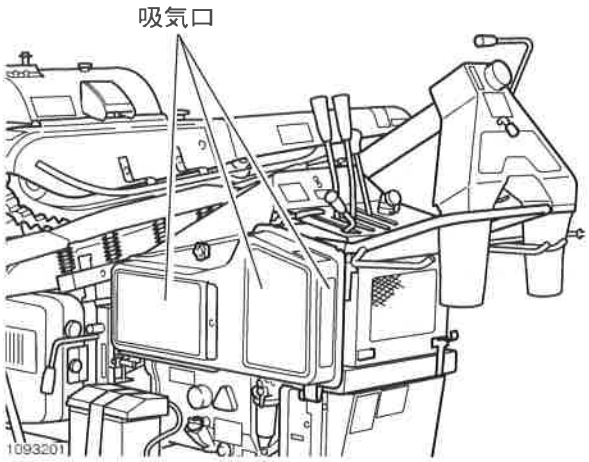
【取扱いの注意】

●冷却水が自然に不足した場合には、水道水だけを入れてください。

●不凍液の有効期限は 1 年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

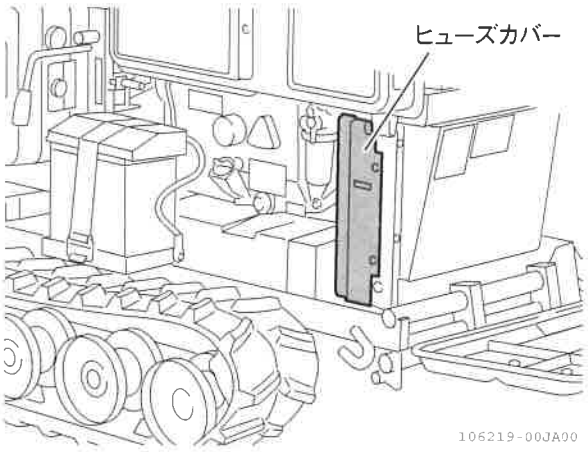
9. 吸気口の掃除のしかた

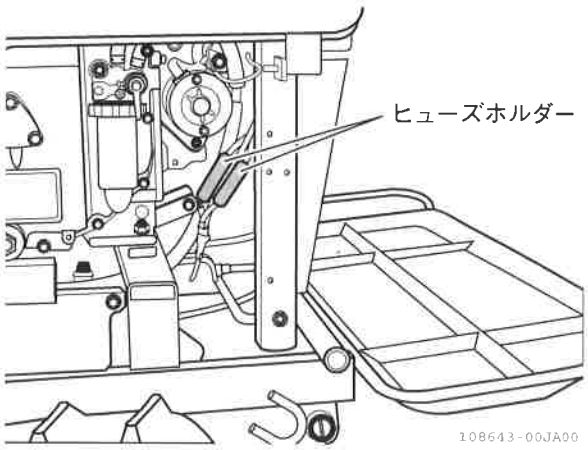
吸気口にゴミやワラクズなどが堆積・付着しますと、冷却風の通りが悪くなり、エンジンの焼付をおこすことがあります。ゴミ・ワラクズの堆積・付着にはいつも注意し、1日2～3回掃除してください。また、内部のフィルターエレメントもゴミが付着しますので掃除してください。



10. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。
ヒューズが切れたときは、ヒューズカバー（ボルト2本）を取り外して、エンジンルーム内部のヒューズホルダーを外し、ヒューズ（バッテリ…20A、警告…10A）を交換してください。





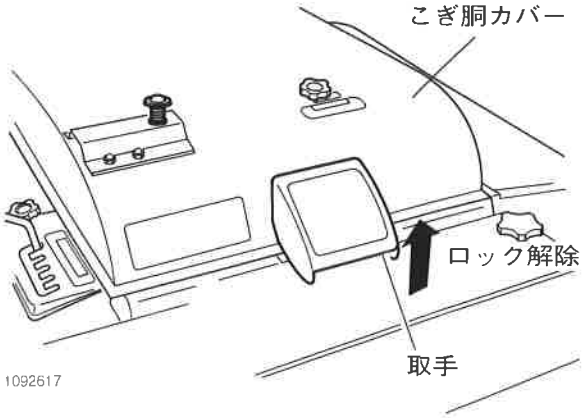
11. 切刃の交換のしかた

⚠注意

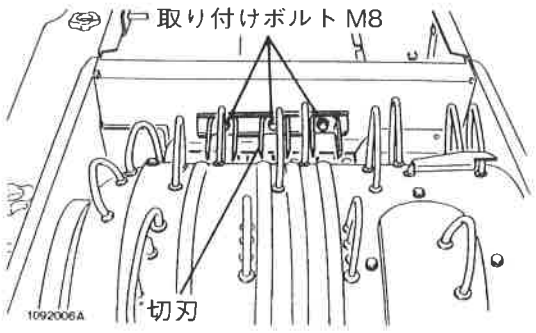
●切刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

刃先が摩耗していたり欠けていると、ワラクズの切断性能が低下します。こぎ胴切刃と処理胴切刃を取り外して、新しい切刃に交換してください。

①こぎ胴カバーの取手を上に上げ、こぎ胴カバーを開きます。(49 ページ参照)

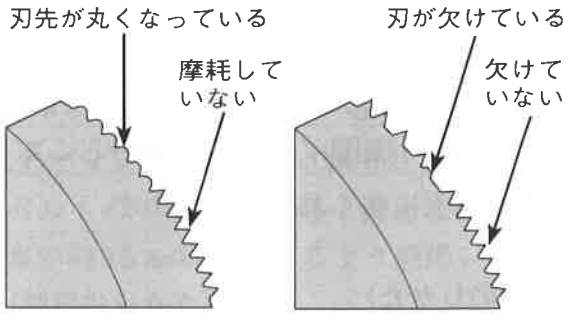


②取付ボルト M8 を外して、切刃を交換します。



【参考】

●切刃の刃先を確認して、下図のように刃先が摩耗していたり、欠けているときには交換してください。



〈摩耗〉　〈欠損〉

12. 走行クラッチレバーの調節のしかた

（駐車ブレーキ・ミッション駆動ベルト）

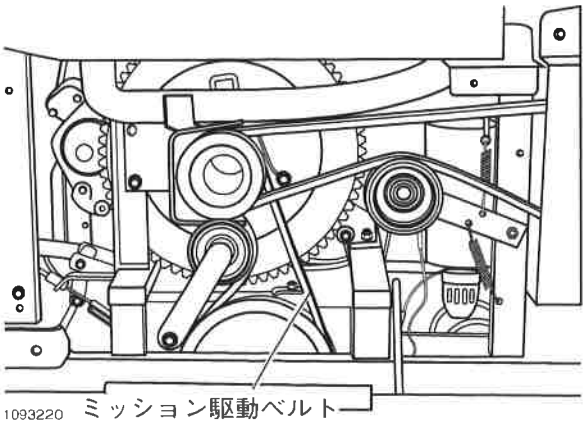
走行クラッチが「**入**」位置で、ミッション駆動ベルトの中央を指で軽く押えたときのたわみ量を 15 ～ 20 ㎜にします。
また、「**駐車ブレーキ**」は走行クラッチが「**切**」位置より作動し始め、「**駐車ブレーキ**」位置で確実にきくよう調節します。

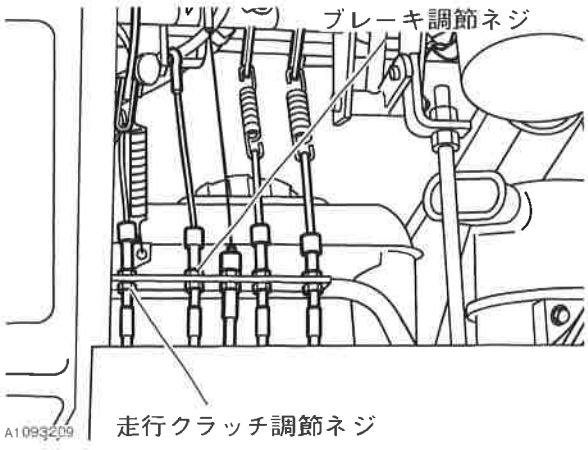
〈調節のしかた〉

各々のワイヤー調節ネジで調節します。

ミッション駆動ベルト

使用ベルト	SB42 もしくは同等品



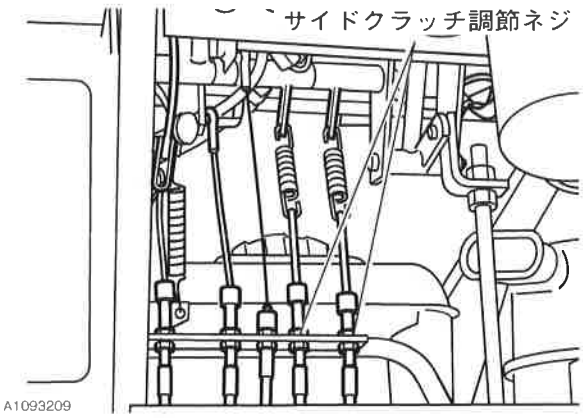


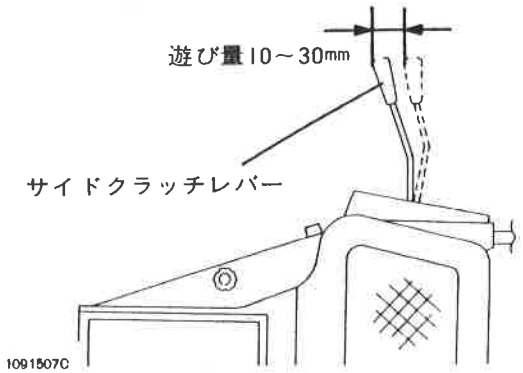
13. サイドクラッチレバーの調節のしかた

サイドクラッチレバーがマークの「**切**」位置で確実に切れるよう調節します。

〈調節のしかた〉

サイドクラッチ調節ネジで遊び量を 10 ～ 30 ㎜に調節し、「**切**」位置で確実に切れることを確認してください。



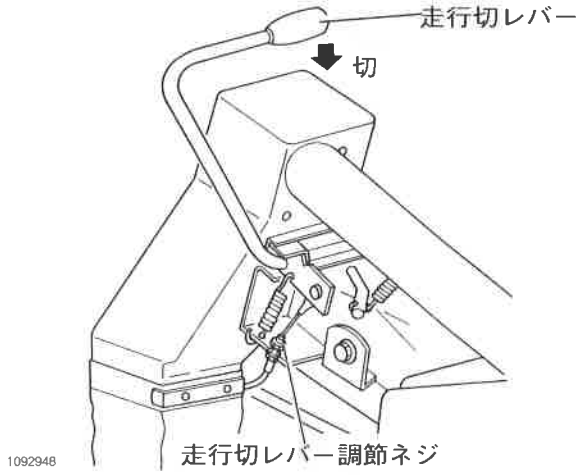


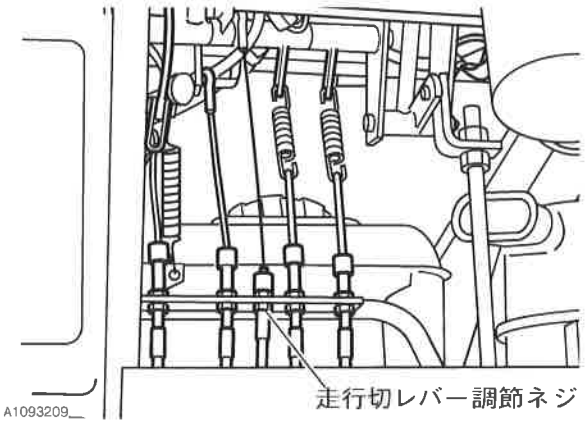
14. 走行切レバーの調節のしかた

走行クラッチレバーを「**入**」位置にし、走行切レバーを下方に押したとき、走行クラッチレバーが「**切**」位置になるよう調節します。

〈**調節のしかた**〉

籾投口の裏側または、操作部下方にある走行切レバー調節ネジを調節し、走行切レバーを「**切**」位置にしたとき、走行クラッチレバーが「**切**」位置になるよう調節します。





15. 各ベルトの調節のしかた

⚠注意

- **調節するときは、必ずエンジンを止めてください。守らないとケガを負うおそれがあります。**

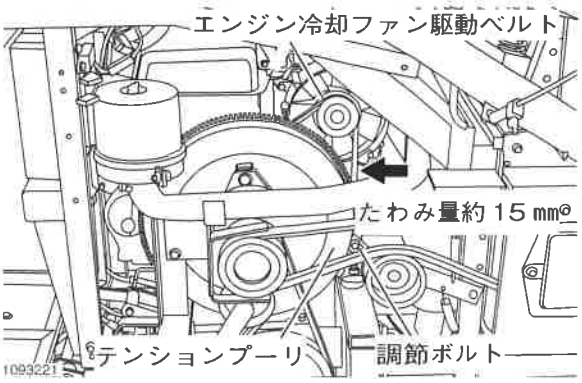
エンジン冷却ファン駆動ベルト

ベルトの中央を指で軽く押えて、たわみ量が約 15 ㎜程度になるよう調節します。

〈**調節のしかた**〉

テンションプーリの調節ボルトをゆるめテンションプーリで張り調節をします。

ベルトサイズ	特 M35H（25117-003501）



※張り代がなくなった場合はファンベルトを交換してください。

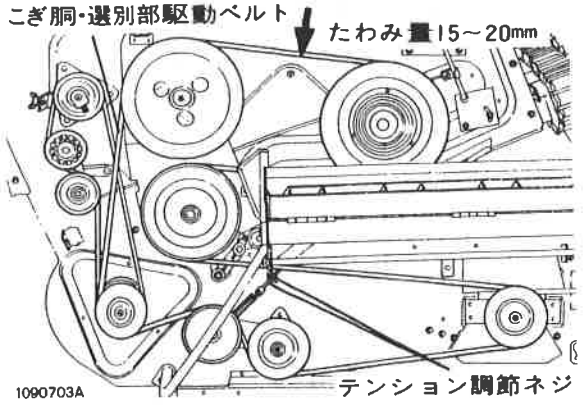
こぎ胴・選別部駆動ベルト

ベルトの中央を指で軽く押えたときの、たわみ量を15～20㎜にします。

〈調節のしかた〉

テンション調節ネジのナットをゆるめて、上記の張り寸法になるように調節します。

ベルトサイズ	特C149H（25124-014902）

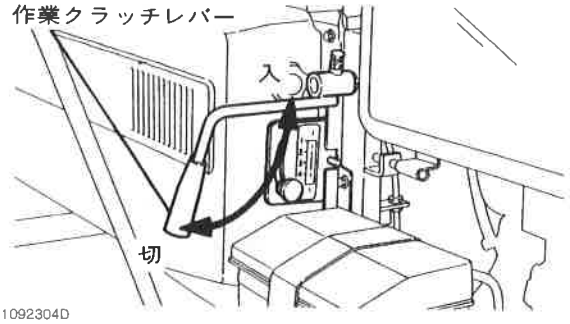


吸引駆動ベルトの調節

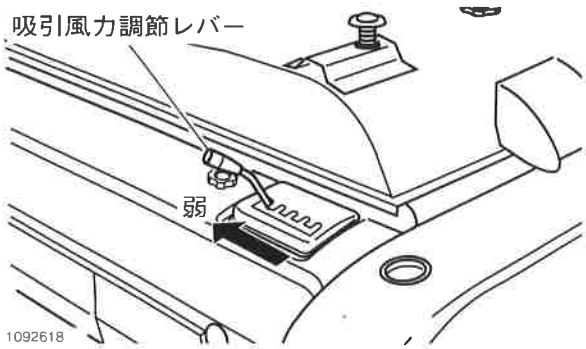
吸引風力調節レバーが「弱」位置のとき、こぎ胴を空回しして、ベルトとプーリの外端が合うように調節します。

〈調節のしかた〉

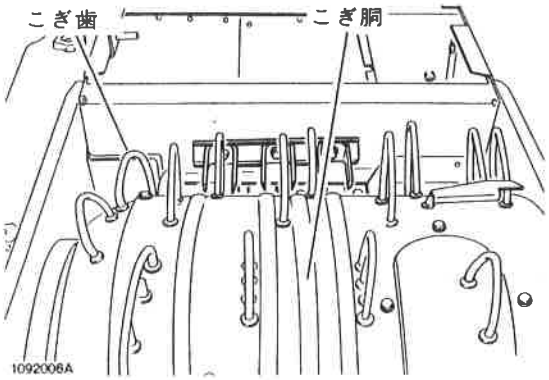
①作業クラッチレバーを「切」位置にします。

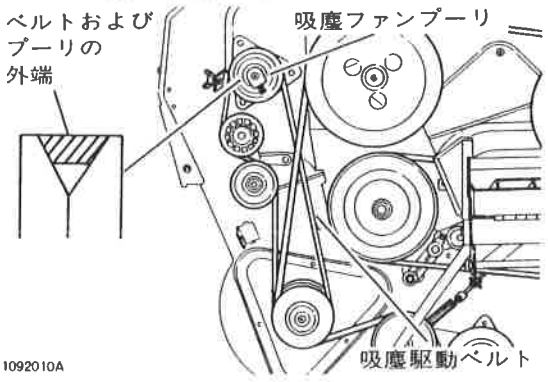


②吸引風力調節レバーを「弱」位置にします。



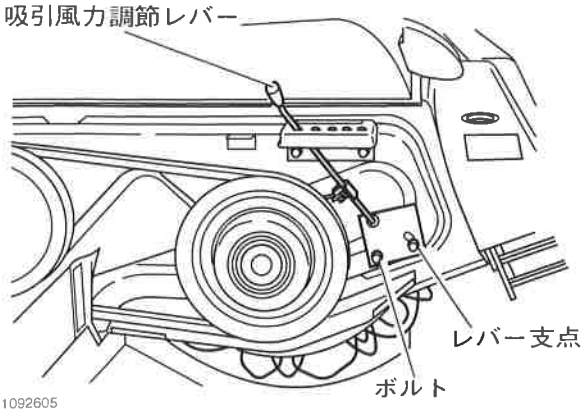
③こぎ胴を、こぎ歯を持ってゆっくり回しながら、吸塵ファンプーリの外周とVベルトの外面が一致するように、ボルトをゆるめて、レバー支点を調節します。
※セット後、再度こぎ胴を空回しして、ベルトとプーリの外端が合っているか、確認してください。





④吸引風力調節レバーにより、作業条件にあわせて吸引風力調節をします。

使用ベルト	SA48 もしくは同等品



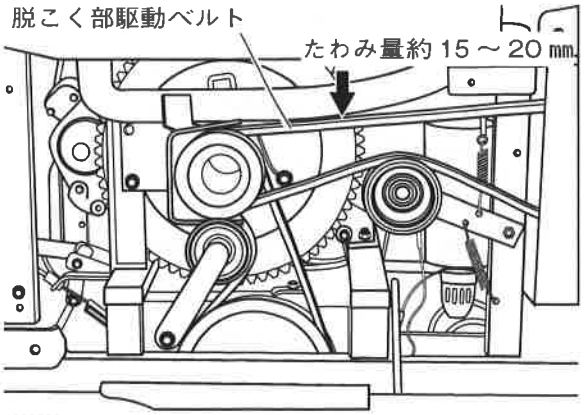
脱こく部駆動ベルト

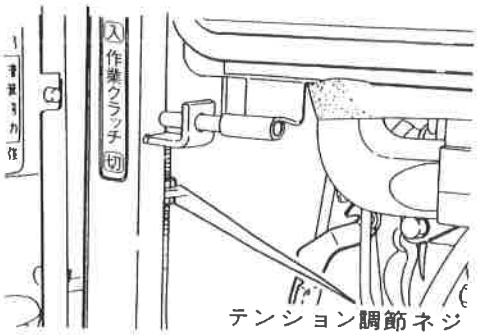
作業クラッチレバーが「入」位置で、ベルトの中央を指で軽く押えたときのたわみ量を15～20㎜にします。

〈調節のしかた〉

テンション調節ネジのナットをゆるめ、上記の張り寸法に調節します。

使用ベルト	特C61H（25124-006102）



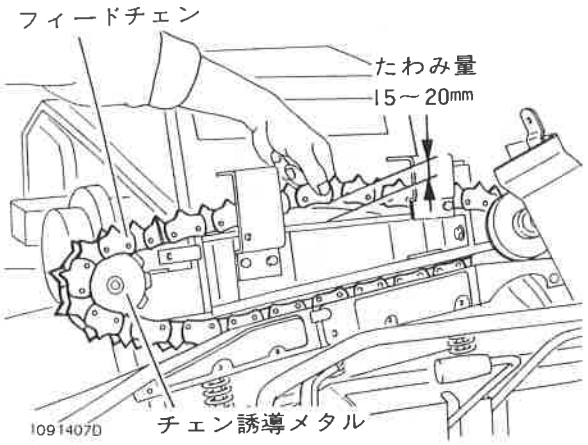


フィードチェンの調節

フィードチェンカバーを取り外し、チェンの中央を持ち上げたとき、チェンとチェン台とのスキマを約15～20㎜に調節します。

〈調節のしかた〉

チェン誘導メタルを外側に引出して調節します。



16. クローラの調節のしかた

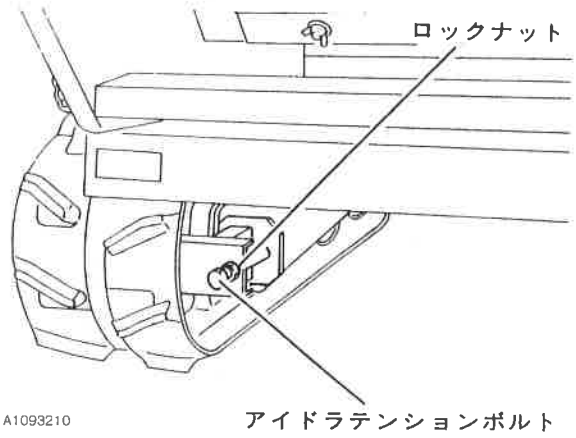
クローラの上側の中央部を両手で引張り上げて（20～30kg）、7～10㎜程度上がるように調節します。

〈調節のしかた〉

アイドラテンションボルトのロックナットをゆるめ、内側のボルトを回してクローラの張り調節をします。

【取扱いの注意】

- **調節は平坦な場所で行ってください。**
- **張りすぎ、ゆるめすぎはクローラの耐久力を損いますので注意してください。**



17. バッテリについて

⚠危険

●バッテリの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

●バッテリ液は、「下限（LOWER)」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

●バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

●バッテリ端子を取り付けるときは、（＋）側を先に取り付け、取り外すときは（ー）側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。

●バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。取り除かないと火災の原因になります。

●バッテリの寿命がなくなり、新品のバッテリと交換する場合には、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。配線やヒューズを損傷するだけでなく、火災の原因になります。

【取扱いの注意】

●バッテリのターミナル部にはグリスを塗布しておいてください。

●バッテリ（＋）ターミナルのゴムブーツは必ず取り付けておいてください。

●取り付けのとき、ターミナル接触部は布などで油などをふきとってください。

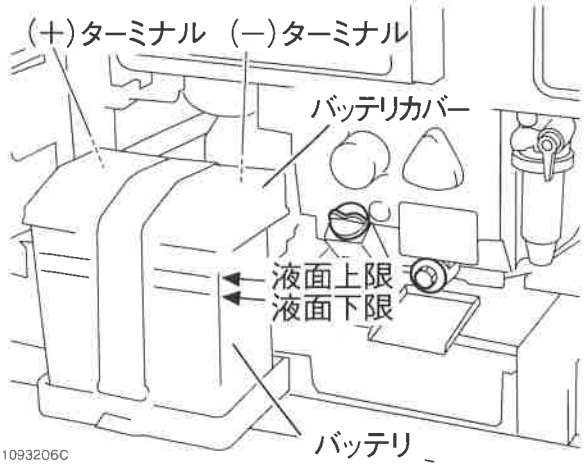
●バッテリの充電は、本機に装着したままで行うと、電装品の損傷のほかに、配線などをいためることがあります。充電時は必ず本機から取り外して行ってください。また、急速充電もできるだけ避けてください。（バッテリの寿命を短くします。）

●バッテリ液をバッテリケース液面レベルの上限を超えるほど入れると、使用中に液が漏れて本機を腐蝕させることがあるので、補給するときは液面レベル上限を超えないよう注意してください。

●環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは放置したり、捨てたりせずに新しいバッテリを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

バッテリ液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリ液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



1093206C

【取扱いの注意】

- **バッテリカバーは、必ず取り付けてください。**
- **バッテリ液は、常に規定量を保ってください。**
- **バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。**
- **バッテリを交換するときは、必ず指定のバッテリを使用してください。**

補充電について

寒冷地などの気温の低い地域や、エンジンの始動がしにくくなったら、補充電を行います。

また、エンジンを２週間以上運転しないと、バッテリが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電してください。

〈補充電のしかた〉

充電は、バッテリの（－）を充電器の（－）に、バッテリの（＋）を充電器の（＋）に接続して行いますが、充電器の取扱書を十分お読みになってから行ってください。

なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。



1092654

〈バッテリの取り付け、取り外しのしかた〉

バッテリからコードを外すときは、必ず（－）側から外します。（逆にすると、工具などが接触したときにショートし、火花で火災を誘発するおそれがありたいへん危険です。取り付けるときは、必ず（＋）側から取り付けます。）



1092653

不調診断

⚠警告

- **点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。守らないと、ケガをするおそれがあります。**
- **エンジンのマフラーなど、高温部にはさわらないでください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。守らないと、ケガを負うおそれがあります。**

状　況	点検箇所	処　置
エンジンがかからない	燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。
	エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。(29 ページ参照)
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜っていれば、燃料タンクのドレン抜きや燃料コシ器を外して水抜きをしてください。
	燃料に空気が入っていませんか。	燃料の空気（エア）抜きをしてください。(58 ページ参照)
	キースイッチを「**入**」位置にして、チャージランプ・エンジン油圧ランプが点灯しますか。	点灯する場合は、走行クラッチレバーが「**駐車ブレーキ**」位置、作業クラッチレバーが「**切**」位置になっているか確認してください。
		点灯しない場合は、バッテリ部のヒューズホルダーを外し、ヒューズが切れていないか確認してください。(60 ページ)
	バッテリが上がっていませんか。	バッテリを点検し、補充電してください。(68 ページ)
	バッテリターミナル部の締付がゆるんでいませんか。	増締めしてください。

状　況	点検箇所	処　置
エンジンの力がないときには	エアクリーナーにゴミが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。 (58 ページ参照)
	エンジン防塵フィルターにゴミが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。
	吸気ダクトの網目にゴミがつまっていませんか。	きれいに掃除してください。 (60 ページ参照)
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ替えてください。(53 ページ参照)
籾が出なくなったときには	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	作物が乾くまで待って作業してください。 (39 ページ参照)
	一番コンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。 (48 ページ参照)
	揚こくコンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。 (48 ページ参照)
	二番コンベアが詰まっていませんか。	きれいに掃除してください。 (48 ページ参照)
	こぎ胴の回転数が低すぎませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。
	こぎ胴・選別部駆動ベルトがスリップしていませんか。	正しく調節してください。 (64 ページ参照)

状　況	点検箇所	処　置
こぎ残りが出るときには	こぎ深さが浅くなっていませんか。	脱こく部入口のこぎ深さ指示マークに、穂先を合わせて稲供給してください。
	こぎ胴の回転数が低くありませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。
籾の飛散が多いときには	送塵調節ノブネジが「**多**」側になっていませんか。	送塵調節ノブネジを「**少**」側の位置に調節してください。(45 ページ参照)
	唐箕風力、吸引風力が「**強**」になっていませんか。	選別が悪くなければ「**弱**」位置にします。(45 ページ参照)
	エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルレバーで規定回転数にしてください。
こぎ室内でゴトゴト音がするときには	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから脱こく作業を行ってください。
	こぎ深さが深くなっていませんか。	脱こく部入口のこぎ深さ指示マークに、穂先を合わせて稲供給してください。
	こぎ胴の回転数が低くありませんか。	脱こく作業中に回転計の赤丸が静止した状態となるように、アクセルレバーで調節します。
	稲束の供給量が多すぎませんか。	供給量を少なくしてください。
	送塵調節ノブネジが「**少**」の位置になっていませんか。	稲の含水率の高いときには、送塵調節ノブネジを「**多**」側にしてください。(45 ページ参照)
	ワラがこぎ室に引き抜かれていませんか。	ワラ押え台を調節してください。
	こぎ胴の切刃が磨耗していませんか。	切刃を研磨するか交換してください。(61 ページ参照)

主要諸元

型式名				MH77DS
機体寸法	全　長		(mm)	2865（2165）
	全　幅		(mm)	2685（1190）
	全　高		(mm)	1350（1400）
	架台高さ		(mm)	860
機体質量（重量）			(kg)	455
エンジン	型 式 名			TF70V-EJ
	種　類			横形水冷４サイクルディーゼル
	総排気量		(L {cc})	0.382 {382}
	連続定格出力		(kw {PS} /rpm)	5.1 {6.9} /2400
	使用燃料			ディーゼル軽油
	燃料タンク容量		(L)	6.5
	始動方式			電気始動（グロープラグ付）
走行部	クローラ幅×接地長（クローラ中心距離）		(mm)	200 × 810（758）
	平均接地圧		(kPa {kgf/㎠})	13.8 {0.140}
	主クラッチ形式			ベルトテンション
	走行クラッチ形式			ドッグギヤと爪ブレーキ併用
	走行速度	前　進	1速 (m/s)	0.31
			2速 (m/s)	1.13
		後　進	1速 (m/s)	0.37
脱こく部	こぎ胴	径×幅	(mm)	420 × 400
		回転速度	(rpm)	500（稲・麦とも）
	選別方式			揺動・唐箕・吸引併用
	籾搬送方式			ラセンコンベア
	こく粒取り出し方式			２口切り換え
	ささり回収方式			２番コンベア還元
	作業能率		(分 /10a)	35 ～ 60

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※機体寸法（　）内は格納時の寸法です。

標準付属品

No.	コードNo.	品　名	個　数	備　考
1	97420000010	取扱説明書	1	
2	97420000020	カバーシート	1	
3	97420000030	コンセント	1	
4	91710002590	防水キー	1	
5	10020039940	ヒューズT 10A	1	
6	97090012250	ヒューズT 20A	1	
7		麦用方向板	1	
8		梱包内容明細書	1	
9		保証書	1	
10		排塵筒仕組	1	本機に締結